

令和7年度
東大和市・東村山市

地域の戦争・平和学習
及び
広島派遣事業
報告書



令和8年1月
東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会

東大和市長あいさつ

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会 委員長

東大和市長 **和地 仁美**



昨年（2025年）は、先の大戦から80年の節目の年でした。日本はその間に経済や社会面で大きな発展を遂げました。一方、世界に目を向けると、現在も国際社会ではさまざまな課題が浮上し、紛争や戦争が絶えない不安定な状況が続いています。

多くの人々が戦争の悲惨さを理解している文明が成熟した時代にも関わらず、相手の考えを尊重し、思いやりを持って話し合うという平和の基本となる行動が取られておらず、武力を選ぶ事例が今なお存在していることは非常に残念です。

一方、国内に目を向けると、先の大戦から長い月日が経過したこともあり、戦争体験を直接語るができる人は急速に減少しており、記憶や教訓をどのように次世代に継承していくかが大きな課題となっています。戦争の記憶が風化していくことへの危機感が広がる中、こうした記憶を次世代に継承する取組の重要性はますます増しています。

このような状況において、東村山市と連携して実施している小・中学生を対象とした本事業は、戦争の悲惨さや命の尊さを未来に伝える取組として、意義深いものだと強く感じています。今年度は東村山市と東大和市の両市から小学生7名、中学生12名が参加し、それぞれの地域における戦禍や広島市の原爆投下の惨状について学びました。

東大和市では市の文化財に指定されている戦災建造物「旧日立航空機株式会社変電所」を訪れ、昭和20年当時の空襲の痕跡を直接目にする事で戦争の脅威を肌で感じていただきました。東村山市では東村山ふるさと歴史館において、南秋津に墜落したB-29の乗組員を追悼して建立された「平和観音」の話を聞いていただきました。その後、東村山市立中央図書館前にある広島市役所旧庁舎の庭にあった敷石や長崎市立山里小学校の校舎の壁の一部が設置された「被爆石モニュメント」を見学し、さらに、8月には世界で初めて原子爆弾が投下された広島市を訪問することで、様々な角度から多くのことを学んでいただけたと思います。また、広島市では実際に被爆された佐伯克彦さんによる臨場感あふれる講話を聞くことにより、当時の情景を思い浮かべながら戦争の悲惨さを深く学ぶことが出来たと思います。これらの経験は、参加した子どもたちの心

に強く刻まれ、平和の大切さを改めて認識する機会になったことでしょう。

広島訪問2日目以降は、私も参加し、子どもたちと共に平和について学ぶ時間を過ごしました。中でも特に印象に残ったのは「ピースクリエイターになろう」というワークショップで子どもたちが現在の世界を平和と感じていない様子を目の当たりにしたことです。大人である私たちが平和の大切さをあらためて考えるとともに、未来の平和を築くために行動しなければならないと痛感させられました。

さらに、8月6日に行われた平和記念式典では、世界中から訪れた来賓をはじめ、多くの方々と共に平和への祈りを捧げました。

「One voice. たとえ一つの声でも、学んだ事実に思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはずです。」

これは、平和記念式典でこども代表が述べた平和への誓いの中の言葉です。

本報告書には、参加した子どもたちがこの事業の中で学び、感じ取った「声」が掲載されています。それぞれの「声」は、きっと皆さんに平和への行動のきっかけや変化をもたらすものになると信じています。

東大和市は、平成2年に恒久平和の実現と核兵器廃絶を願う「平和都市宣言」を行い、平和を愛する人々と手を携えて、戦争と核兵器のない世界を目指す活動に取り組んできました。また、多摩地域では、26市の市長が結束して設立した「平和首長会議東京都多摩地域平和ネットワーク」を通じて、地域全体で平和文化の振興とその向上を図る取組を強化しています。

私たちは、これからも未来の平和を守り、戦争と核兵器のない世界を実現することを使命とし、今後も取組を続けてまいります。

結びにあたりまして、本事業にご参加いただきました小・中学生及びその保護者の皆様、また、事業の実施に向けてご協力いただきました多くの皆様に心から御礼を申し上げます。

令和8年1月

東村山市長あいさつ

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会 副委員長
東村山市長 渡部 尚



人類史上初の原子爆弾が広島と長崎に投下され、まちを一瞬にして破壊し、多くの人々の尊い命を奪った日から、80年が経過しました。辛うじて生き延びた人々も、目に見えない放射線の障害に苦しみ、心身に負った深い傷は、今もなお、決して消えることはありません。

世界で唯一、核兵器による惨禍を体験した国に生きる私たちは、核兵器の恐ろしさや戦争の悲惨さ、そして平和の大切さを決して忘れることなく後世へ伝えていかななくてはなりません。

東村山市においては、昭和39年に「平和都市宣言」を、昭和62年には「核兵器廃絶平和都市宣言」を行い、恒久平和の実現に向けて、さまざまな取り組みを重ねてまいりました。その取り組みの一つとして、東大和市と合同で市内の小・中学生を対象に「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」を実施し、両市あわせて19人の小・中学生に参加していただきました。小・中学生たちは、自分たちが住む地域における戦争の歴史等を学び、また実際に広島を訪問し、平和記念式典の参列や平和記念資料館の見学等を行い、平和への理解を深め、私も、東村山市と東大和市の小・中学生たちとともに広島の平和記念式典に出席し、原爆で犠牲となられた方々の御霊に哀悼の誠を捧げるとともに、世界平和と核兵器廃絶を祈念してまいりました。

また、9月下旬には、東村山市の子どもたちと共に、市内に新設した萩山公園に被爆樹木二世の植樹を行いました。平和の木として苗木の成長を市民の皆さまと共に見守るとともに、平和の大切さを見える形で後世に共有し、意識の醸成につなげてまいります。

世界に目を向けますと、ロシアによるウクライナ侵攻、ガザ地域でのイスラエルとハマスの戦闘の長期化により、多くの尊い命が犠牲となりました。また日本を取り巻く東アジアの安全保障環境も厳しさを増すなかで、国家間の対立が増加し、核保有国による核使用の可能性が懸念されるなど、私たちを取り巻く世界情勢は依然として非常に不安定な状況にあります。しかし、そのような時にこそ私たちは核廃絶を世界に向けて発信し続けるとともに、二度と戦争を起こしてはならないこと、平和を守っていくことの重要性を、次世代を担う子どもたちに伝えていく責務があります。

今年度は戦後80年事業として、平和首長会議東京都多摩地域平和ネットワークに加盟している東京都多摩地域26市が共同で「多摩地域平和ユース事業」を実施しています。これは戦争の悲惨さや平和の大切さを若い視点で発信できる「多摩地域平和ユース」の育成を目的とするものです。一自治体の力は世界と比較すると脆弱かもしれませんが、26市が連携して多摩地域における平和の課題に対して取り組み、平和の尊さを内外へ向けて発信していくこと、そうした取り組みの積み重ねが、いずれ世界を動かす大きな一歩になると信じております。

次世代を担う小・中学生たちが本事業を通じて何を学び、平和についてどのように感じ、受け止めたのか、ぜひこの報告書をご覧ください、一緒に平和について考える機会にいただければ幸いです。

結びに、本事業にご参加いただきました小・中学生及び保護者の皆様、ご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

令和8年1月



次

1	実施概要・日程	4
2	参加者名簿	5
3	地域の戦争・平和学習会	6
4	広島派遣	8
5	報告会	13
6	参加者感想文	
	Aグループ	17
	Bグループ	21
	Cグループ	26
	Dグループ	31
7	参加者アンケート	36
8	資料	
	東大和市平和都市宣言・	
	東村山市核兵器廃絶平和都市宣言	42

2

参加者名簿

市も学年も混合の4つのグループを編成し学習しました。

参加者: 東大和市 9人 (中学生6人 小学生3人)

東村山市 10人 (中学生6人 小学生4人)

報告会: A・Bグループ 8月16日(土) 東大和市「平和市民のつどい」

C・Dグループ 8月24日(日) 東村山市「平和のつどい」

グループ	名 前	学 校	学 年
A	石橋 雅幸 <small>いし ぼし まさ ゆき</small>	東村山市立東村山第七中学校	2年
	泉 舞 歩 <small>いずみ ま ほ</small>	東大和市立第四中学校	2年
	淵上 心結 <small>ふち がみ み ゆ</small>	東大和市立第三中学校	1年
	島崎 友花 <small>しま ぎき ゆ な</small>	東村山市立秋津小学校	5年
B	淵上 真妃 <small>ふち がみ ま き</small>	東大和市立第三中学校	3年
	樋口 結子 <small>ひ ぐち ゆい こ</small>	東村山市立東村山第一中学校	2年
	神田 悠司 <small>かん だ ゆう し</small>	東村山市立東村山第六中学校	1年
	上野 結太呂 <small>うえ の ゆう たろ</small>	東大和市立第五小学校	5年
	澤田 彩花 <small>さわ だ あや か</small>	東村山市立秋津小学校	5年
C	中島 柚羽 <small>なか じま ゆず は</small>	東大和市立第四中学校	3年
	鈴木 煌汰 <small>すず き こう た</small>	東大和市立第一中学校	2年
	河井 にこ <small>かわ い に こ</small>	東村山市立東村山第七中学校	1年
	山田 杏菜 <small>やま だ あん な</small>	東大和市立第一小学校	6年
	打越 柑奈 <small>うち こし かん な</small>	東村山市立萩山小学校	5年
D	東 あかり <small>ひがし あかり</small>	東村山市立東村山第三中学校	2年
	吉田 龍騎 <small>よし だ りゅう き</small>	東大和市立第三中学校	2年
	寺田 航翼 <small>てら だ こう すけ</small>	東村山市立東村山第五中学校	1年
	大庭 真帆 <small>おお ば ま ほ</small>	東村山市立大岱小学校	5年
	大松 愛結 <small>おお まつ あ ゆ</small>	東大和市立第十小学校	5年

3

地域の戦争・平和学習会

- ◆ 小・中学生たちは、東大和市と東村山市の施設を見学し、自分たちが住んでいる身近な地域でも戦争の被害があったことを学びました。

スケジュール

7月25日（金）

- 午前 東大和市「旧日立航空機株式会社変電所」見学・「戦争体験映像記録」視聴
- 午後 東村山市「東村山ふるさと歴史館」見学・「被爆石モニュメント」見学
グループワーク「地域の戦争・平和学習について感じたこと、考えたこと」
「広島で学びたいこと」

旧日立航空機株式会社変電所見学

地域の戦争・平和学習会の第一歩として、東大和市の都立東大和南公園内にある「旧日立航空機株式会社変電所」を見学しました。

昭和13（1938）年に建設された軍需工場の変電施設である旧日立航空機株式会社変電所は、昭和20（1945）年の空襲による傷痕が残る施設です。アメリカ軍から1,800発あまりの爆弾による攻撃を受け、工場のほとんどが壊滅した中、変電所だけは残り、戦後も稼働し続けました。平成5（1993）年まで操業を続け、平成7（1995）年に東大和市の文化財に指定されました。

小・中学生たちは、空襲による生々しい被害の痕が残る建物を見学し、外壁を貫通した銃痕をまじまじと見つめ、あらためて攻撃のすさまじさを実感しました。また、東大和市立郷土博物館の職員から、施設周辺の状況や、働いていた方々の被害についても説明を受け、理解を深めました。



戦争体験映像記録視聴

【東大和市戦争体験映像記録「沈黙の証言者～私たちのまちは戦場だった～」】

東大和市では、戦後70年の節目である平成27（2015）年に、平和の大切さを再認識するとともに、戦争を風化させることがないように、旧日立航空機株式会社に勤務されていたかたの戦争体験談や、旧日立航空機株式会社変電所の歴史や現在の姿をまとめた映像記録を制作しました。

小・中学生は、当時の様子を思い浮かべながら、貴重な体験談を視聴しました。



東村山ふるさと歴史館見学

東村山ふるさと歴史館で、戦時下の東村山市の様子や、市内にあった戦争関連施設について学びました。

小・中学生たちは、当時、東村山地域にもB-29が飛来し照明弾と時限爆弾が投下され、家屋が被災し死者が出たことを教わりました。また、南秋津に墜落し死亡したB-29の乗組員を追悼し、昭和35（1960）年に地元市民の手によって建立された「平和観音」のお話を聞きました。当時の人々の平和を祈念する気持ちに触れ、平和について考える機会となりました。

軍事施設である「東京陸軍少年通信兵学校」についての説明では、全国から受験し合格した15歳前後の少年たちが、モールス信号の送受信や通信機の扱い方について厳しい訓練を受けていたことなどを学びました。当時の子どもたちの暮らしを想像するとともに、その後の展示の見学を通じて、より見識を深めました。



被爆石モニュメント見学

東村山市立中央図書館前にある「被爆石モニュメント」を見学しました。

被爆石モニュメントとは、昭和20（1945）年8月6日の原爆投下時に被爆した広島市役所旧庁舎の庭にあった敷石と、同年8月9日に被爆した長崎市立山里小学校の校舎の壁の一部を東村山市が譲り受け、平成元（1989）年9月25日に設置したものです。

長崎市の山里小学校は、爆心地から約600メートルのところにあり、原爆の熱線を浴び多くの命が奪われた場所です。戦後、原爆の恐ろしさを訴え続ける貴重な建物の一つとして、小学校は保存されてきましたが、昭和63（1988）年、建物の老朽化により解体され、東村山市が譲り受けました。

説明を聞いた小・中学生たちは、身近な場所に原爆の痕跡が残されていることを知りました。



グループワーク

地域の戦争・平和学習について、4つのグループに分かれ、ふせんと模造紙を使ったグループワークを行いました。

「地域の戦争・平和学習について感じたこと、考えたこと」「広島で学びたいこと」について、各グループの発表を聞き、広島での学習に向け、それぞれの考えをまとめました。



4

広島派遣

1日目
8/4(月)

広島被爆者体験講話の聴講

講師: 佐伯 克彦さん

80年前、当時1歳だった佐伯さんは、広島に原子爆弾が投下されたとき、爆心地から4kmほど離れた家の中で、母親に背負われて被爆しました。まだ1歳であった佐伯さんは、当時の記憶はないものの、家族や親戚等当時を知る人たちから聞いた話や戦後についての話をしてくださいました。

原爆が投下された際に、全身火傷を負った人々の様子や「水を飲んではいけない」と誤った情報が流れ、多くの方が亡くなったこと、死者が多く、小学校の校庭が臨時火葬場になっていたことなど、当時の悲惨な状況を鮮明に語られました。また、被爆後に、後遺症が遺伝してしまうかもしれないという理由で結婚をしてはいけない等の差別を受けていた話など、戦後も原爆の被害は続いていたことを知った小・中学生たちは、とても驚いた様子でした。

「原爆は怖いものだけど、正しく知ってほしい。」「もし戦争が起きたらどうなるか、自分のこととして想像してほしい。」「自分の命も他者の命も大切にしてほしい。」そして、「広島のごことは私たちが伝えていきます。みなさんは、あの戦争の時何があったのか、みなさんの地域で起きたことを伝えていってください。」と佐伯さんは呼びかけました。佐伯さんから伝えられた言葉は、小・中学生たちの心に強く響きました。

聴講後、グループごとに講話を聞いて感じたことや分かったこと、そして考えたことなどを話し合い、発表しました。佐伯さんから語られた言葉の重みを受け止め、平和を守り、そして平和な世界を未来につなげていくために、自分たちに何ができるのかを、ひとりひとりが真剣に考えました。



グループワークの様子



2日目
8/5(火)

袋町小学校平和資料館

爆心地から 460 メートルの距離にある袋町小学校では、疎開していた生徒を除いて大半の人が犠牲になりました。

原子爆弾により木造校舎は倒壊・全焼し、鉄筋コンクリート3階建ての西校舎は外郭のみ原形をとどめました。かろうじて倒壊を免れた西校舎は原爆投下翌日から救護所となり、階段の壁面には被爆者の消息を知らせる多くの伝言が残されました。

今でも残っている内壁の一部に書かれた伝言を見て、当時の過酷な状況に小・中学生たちは胸を痛めました。



島病院（爆心地）

相生橋を狙って投下された原爆はやや東にそれ、島病院の上空約 600 メートルで炸裂しました。この一帯は、約 3,000 度から 4,000 度の熱線と爆風や放射線を受け、ほとんどの人々が一瞬で命を奪われました。現在は島内科医院となっており、建物の横に説明板があります。当時の写真からは想像もできないほど、静かなビル街となっていますが、この地に恐ろしい威力の原爆が落ち、建物も病院内にいた人も、跡形もなくなってしまうという事実に、小・中学生たちは衝撃を受けている様子でした。



原爆の子の像

2歳で被爆した佐々木禎子さんは、小学6年生の時に白血病を発症しました。病気を治したいという願いを込めて鶴を折り続け、その数は千羽を超えましたが、8か月の闘病生活の後、12歳で亡くなりました。

禎子さんの友人たちの熱心な思いが世間を動かし、原爆の子の像は建立されました。像には、年間約 10 トンにも及ぶ、1 千万羽もの折り鶴が捧げられます。小・中学生たちも、自分たちが折った折り鶴を捧げ、平和を願いました。



原爆ドーム

大正4（1915）年に「広島県物産陳列館」として建てられ、戦時中は官公庁等の事務所として使用されていました。爆心地から約160メートルの至近距離にあったため、当時建物の中にいた人は全員が亡くなりました。平成8（1996）年12月には、核兵器廃絶と人類の平和を求める誓いのシンボルとして世界遺産に登録されました。見事に復興を果たした広島街並みで、唯一破壊されたままの姿を残している原爆ドーム。原爆の恐ろしさ、残酷さを静かに伝える原爆ドームを前に、小・中学生たちは、戦争の悲惨さと平和の尊さについて、あらためて胸に刻みました。



平和の灯

台座は、手首を合わせ、手のひらを大空に広げた形を表現しています。水を求めてやまなかった犠牲者を慰め、核兵器廃絶と世界恒久平和を希求するため、建てられました。昭和39（1964）年8月1日に点火されて以来、核兵器が世界中から無くなり、恒久平和が実現するときまで、燃やし続けられると言われています。



本川小学校平和資料館

爆心地から至近距離にあった旧本川国民学校の校舎にある平和資料館を見学しました。当時は珍しかった鉄筋コンクリート建ての校舎は骨格を残してほぼ全焼し、校長、教職員10名、児童約400名の尊い命が奪われ、奇跡的に助かったのは教職員1名、児童1名だけでした。小・中学生たちは、被爆後の写真や熱で溶けたガラス瓶等を真剣に見学し、熱線による被害の大きさを目の当たりにしました。



被爆したアオギリ

平和記念公園の中には、被爆したアオギリがあります。この木は、原爆の熱線と爆風をまともに受け、枝葉はすべてなくなり、幹は爆心側の半分が焼けてえぐられましたが、その傷跡を包むようにして成長を続けています。アオギリは、その後も毎年種子をつけており、各地で多くの被爆アオギリ2世が元気に育っています。

なお、被爆アオギリ2世は、東大和市の旧日立航空機株式会社変電所や東村山市の萩山公園にも植樹されています。



広島平和記念資料館

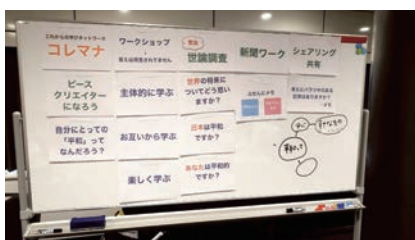
広島平和記念資料館は、原爆投下の瞬間を再現したホワイトパノラマ、被爆者の遺品など、被爆の惨状を示す写真や資料を展示するとともに、広島のみなどについて紹介しています。建物疎開の作業現場で被爆し亡くなった折免滋さん（当時13歳）が持っていたお弁当箱や、鎌谷伸一ちゃん（当時3歳11か月）が原爆投下の瞬間に乗っていた三輪車等が展示されており、小・中学生たちは、当時の子どもたちの身に容赦なく降りかかった、目を背けたくなくなるような惨劇を目の当たりにしました。原爆の恐ろしさと一緒にして多くの命を奪う残虐性を知り、二度とこのような悲惨な出来事を繰り返してはならないと平和への思いを強くしました。



ピースクリエイターになろう 特定非営利活動法人 これからの学びネットワーク

広島平和記念資料館で当時の原爆被害や今日に至るまでの広島のみを学んだあと、「平和」とはなにか、についてあらためて考えました。「私にとっての「平和」とは何だろう。」ひとりひとりが「平和」について、自分の言葉で表現し、お互いの考えを知り、共有しました。答えは決してひとつではなく、「平和」について自分の考えを深めるための時間でした。

両端にピンクとブルーの色がつけられたロープを用いて、平和の度合いを可視化する世論調査。「今の日本は平和ですか?」「あなたは平和的な人間だと思いますか?」といった質問に、小・中学生はロープを握ってそれぞれの度合いを表現し、そして、なぜそう思うかを共有しました。また新聞記事を読み、平和的なもの、平和的でないものについて分類したり、模造紙の上に、どんなことが「平和」なのか、言葉で書き表していきました。最後に、私にとっての「平和」を考えました。なぜそう考えたのか、理由をグループ内で共有し、ピースクリエイターとしての第一歩を踏み出しました。



グループワークの様子



3日目
8/6(水)

平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）

平和記念公園で行われた平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）に参列し、原爆の犠牲になられたかたに哀悼の意を含め、恒久平和を祈って黙とうを捧げました。広島市長の「平和宣言」、平和の象徴である鳩が一斉に放たれたあと、小・中学生たちは、同世代のこども代表の「平和への誓い」に耳を傾けました。「One voice. たとえ一つの声でも、学んだ事実に思いを含めて伝えれば、変化をもたらすことができるはずです。」という言葉に、自分たちにできる平和への一歩は何かを改めて考えました。

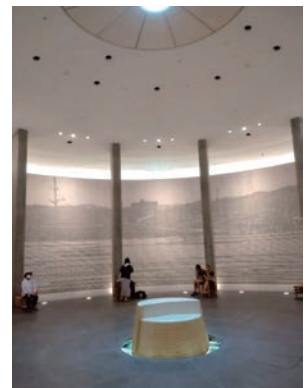


国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館は、国として、原子爆弾死没者の尊い犠牲を銘記し追悼の意を表すとともに、永遠の平和を祈念するために建てられた施設です。

地下2階にある平和祈念・死没者追悼空間の壁面には、爆心地付近からみた被爆後の街並みが、死没者数約14万人と同数のタイルを用いて表現されており、小・中学生たちは圧倒されていました。

また、保存されている原爆死没者の名前と遺影や被爆体験記、証言映像などの資料から伝えられる戦争の悲惨さや恐ろしさ、そして無差別に多くの命を一瞬にして奪った原爆の残酷さは、小・中学生たちに大きな衝撃を与えました。



路面電車

広島を走る路面電車は、原爆により壊滅的な被害を受け、全線不通となりましたが、原爆投下からわずか3日後、関係者たちの不撓不屈の努力によって一部区間が復旧し、運転を再開しました。現在も、被爆電車651号と652号の2両は、人々を乗せて広島を走り続けています。

小・中学生たちは、窓から現在の広島を眺めながら、この3日間で広島の街から学んだことをひとつひとつ思い返すとともに、当時の広島へ思いを馳せました。



5

報告会

- ◆ 本事業は、東大和市と東村山市の共同実施事業のため、報告会は、各市で実施した平和行事の中で行いました。事業を通して勉強し、分かったことや気づいたこと、そこから何を感じ、思ったのかを発表しました。AからDまでの4グループのうち、A、Bグループは東大和市「平和市民のつどい」、C、Dグループは東村山市「平和のつどい」で発表を行いました。

報告会

1

日時 令和7年8月16日(土) 東大和市「平和市民のつどい」

場所 東大和S&D体育館 第一体育室

Aグループ

地域の戦争・平和学習では、旧日立航空機株式会社変電所を見学し、当時、工場内で働く人の中に、女性や子どもがいたこと、コンクリートの壁を貫通するほどの攻撃を受けたことが分かったと述べました。自分たちの住む地域で111人もの人が犠牲となったことに衝撃を受け、そもそもなんで戦争が起きるのか疑問に思うと述べました。

また、広島派遣では、被爆者の佐伯克彦さんの講話を聞いて、原爆投下時の様子や、自分たちと同じ中学生も建物疎開を手伝っていたこと、戦後は、被爆したことを理由に結婚できない等の差別を受けていたこと等を知り、戦争の悲惨さを実感したと発表しました。広島平和記念資料館では、数多くの展示品の中でも、放射線の影響で死の斑点の出た軍人の写真が記憶に残ったと述べ、原爆の被害は爆風や熱線だけではなく、放射線による被害もあったことを学習し、放射線に対する恐怖と、どのようなものかもっと知りたいという意欲を伝えました。

〈個人の発表〉

■ 平和の灯の火が早く消えてほしいです。なぜかという、平和の灯は、核兵器がなくなるまで燃え続ける意味で作られたからです。この意見を考えた理由は、広島原爆と同じ原爆がどこかに落ちたとき、たった一つの原爆でも、約14万人がその日に亡くなってしまうという怖い原爆が、今も世界中にあるからです。

原爆で家族を失った子どもたちもたくさんいて、行く所が無くて、道端で生活する子どもたちも、生きていくために靴を磨く仕事をしたり、仕方が無く人の物を盗む子どももいました。

最後に、この学習をして、原爆があってはならないものだと知りました。最初に言ったように、核兵器が早くなくなってほしいです。

■ 私はこの広島派遣事業に参加してみて、思ったよりも残酷で興味深く、1秒でも早く平和の灯の火が消えてほしいと思いました。

まず、残酷でもっと知りたくなったのが、放射線が当たると、人の皮膚を突き抜けて細胞の中にある染色体を切断すると聞いて、何があったか分からないまま亡くなってしまおうもいて、残酷だなと思いました。

また、興味深かったこともありました。それは、目に見えない放射線ですが、体の中にある細胞のさらに中にある

染色体までたどり着いているので、放射線はいったいどんなものなのか知りたくなってきました。

そして、平和の灯が早く消えて欲しいのは、平和の灯は核兵器がなくなるまで消えないという意味で作られたので、平和の灯が早く消えてほしいと思いました。

最後にこの広島派遣事業で戦争に興味を持てたし、もっと知りたいことが増えて、参加して良かったと思いました。

■ 私は、この広島派遣事業を通して学んだことがあります。それは、実際私たちが想像しているよりもはるかに、戦争はひどく残酷なものだと分かりました。私はこの事業に参加するまで、戦争について学校の教科書でしか知る機会がありませんでした。実際、広島へ行き、特に印象に残ったものは、広島平和記念資料館です。そこで私は、物凄く衝撃を受けました。展示物には、溶けたガラス瓶やボロボロになったモンペが展示されていました。他には全身火傷を負った写真、熱くて川へ逃げ込む絵がありました。私はそれを見て、関係のない人々が、一発の原子爆弾によってたくさんの命や人生を奪われてしまい、ひどく残酷だと感じました。この広島派遣事業に参加し、広島で学んだことや知ったことを周りの人や後世にも伝えていきたいと強く思いました。この世界には、まだ戦争が続いているところがあります。少しでも戦争がなくなってほしい、少しでも平和な世界へ近づけていきたいと思いました。

■ 私がこの広島派遣事業で特に記憶に残っていることは、死の斑点が出た軍人という写真です。この軍人は、被爆後すぐに歯茎から出血し、3日で亡くなりました。この軍人は、名前の通り顔などに死の斑点と言われる血の斑点が出ました。とても怖い写真ですが、実際にこのような人がたくさんいたということを物語っており、今でも脳裏に残っています。

また、被爆者の方のお話を聞いた被爆者体験講話も印象深かったです。お話をさせていただいたのは佐伯さんという方で、1歳の時に爆心地から



4kmの場所で被爆し、佐伯さんの親などから聞いた話をしていただきました。特に小学校の隅に骨が埋められたという話は、死者数がいかに多かったかよく分かりました。広島では他にも色々な経験をし、また東村山市、

東大和市でも色々な見学をしてきました。だからこそ私は強く平和の大切さ、そして戦争、また核の放棄を主張します。

B グループ

地域の戦争・平和学習では、当時、東大和市駅から玉川上水駅周辺が軍事工場であり、自分たちと年が近い中高生が働かされていたことや、3回の空襲で1,800発あまりの爆弾が投下され、111人が犠牲になったこと、被害が大きかったのは最初の空襲だったことを学んだと述べました。旧日立航空機株式会社変電所の見学で、弾が貫通した壁や、折れた鉄筋を実際に見て、爆弾の威力に驚き、恐怖を感じたと感想を述べました。

また、広島派遣では、被爆者の佐伯克彦さんが講話の中で話されていた「原爆を正しく知ること」、「想像すること」、「自分の命も他者の命も大切にすること」、そして「自分たちの地域のことを伝えていくこと」を実行していきたいと述べました。広島平和記念資料館では、全身火傷をした人の絵や写真、展示されたボロボロの服等を見て、もし無事であったとしても、家族や友達を失い、悲しい思いや苦しい思いをしたのだろうと当時の人々の気持ちを想像して発表しました。

〈個人の発表〉

■僕は広島へ行って、戦争の悲惨さや平和の大切さを勉強しました。

広島へ行って一日目は被爆者の佐伯さんのお話を聞きました。中学生は建物疎開に手伝わされていたりしたと言っていました。

二日目に行った爆心地「島病院」の600m上で原爆が炸裂し、写真ではほとんど形が残っていませんでした。広島平和記念資料館には、絵や写真、遺品などが展示されていて、原爆、戦争の恐ろしさを知りました。

三日目に行った平和記念式典では、外国人もたくさんいて、「日本人だけではなく、外国人も平和を望んでいる」と思いました。

この事業に参加して、戦争の悲惨さや平和の大切さをたくさん知ることができたと思います。これからは、平和の重要さを大切にしようと思います。

■私は広島派遣事業で広島に行き、戦争と平和について学んできました。

広島では、原爆がもたらした被害や戦争の悲惨さなどを学びました。広島平和記念資料館では、1945年8月6日午前8時15分に原爆が島病院の真上に落とされたことを知りました。そして、原爆ドームは屋根が鉄骨だけ残り、弁当が黒焦げになっていたり、人が座っていた石段が、原爆の熱線で白っぽくなり、人影だけが残った人影の石などがありました。私は、原爆がこのような被害をもたらし、多くの人の幸せな日常を一瞬で奪ったことを知りました。

私は広島派遣事業で広島に行って学んだことを、これからは伝えていこうと思います。

■私が今回の広島派遣事業で特に印象に残ったのは、袋町小学校平和資料館です。まず、入口に入って一番に入ったのは、階段横の黒い壁です。もともとは白かった

壁が、爆風によって飛んできた煤で汚れ、真っ黒になってしまったものでした。小学校には被爆した人たちが次々にやってきて黒い壁に自分の安否などを書いていったそうです。私はその壁を見て、「あの日の人々の声があるまま収められているようだな。」と思いました。この壁は、いつまでも残っていてほしいと思います。

私が次の世代に伝えていきたいことは、自分たちは戦争には関わっていないけれど、「自分たちの地域にも戦争はあったんだよ。」ということ伝えていきたいと思えます。

■私が、今回の地域の戦争・平和学習会や広島派遣事業で学び、印象に残ったことは、被爆者体験講話での佐伯さんのお話でした。すでに、ビデオなどで被爆者の体験を聞いたことがありましたが、実際に会ってお話を聞くのは、また別のことでした。一つ一つの言葉が重く、私たちの心に問い掛けているようでした。佐伯さんのお話の中でも、特に心に残った言葉があります。それは、「原爆は怖いものだけど、正しく知ってほしい。想像、イメージしてほしい。自分の命も他者の命も大切にしてほしい。そして、広島のことを伝えていくのではなく、自分たちの地域のことを伝えてほしい。」という言葉です。これを聞き、私は、実際に原爆が落とされた広島をとという考えではなく、自分が今いる地域をとという考えに驚きました。私はこれから地域のことを正しく知り、たくさんの方々に伝えていきたいと思いました。また、一人一人の平和の形は違うけれど、私は私が想う平和を伝えていきたいです。

■私は、この広島派遣事業に参加して、戦争とは自分が思っていたよりももっと悲しいことだったんだと思いました。

理由は、広島平和記念資料館や国立広島原爆死没者追悼平和祈念館に行き、原爆が落とされた当時の写真や、原爆が落ちた時の再現映像などがいっぱいあって、その写真がとても悲惨な姿だったからです。

私は、いっぱいあった写真を見て、1km範囲の所は原爆ドーム以外、木と家が全くなってしまっていて、びっくりしました。でも、一番びっくりしたのは、原爆ドームだけが残っていることでした。

私は、写真を見たりして戦争というのは、本当にしてはいけないことだと思いました。そして、この派遣事業に参加して、被爆者の方の話を聞いたりしたということ、今後も忘れずにいたいです。



報告会

2

日時 令和7年8月24日(日) 東村山市「平和のつどい」

場所 東村山市立中央公民館ホール

C グループ



地域の戦争・平和学習では、東村山ふるさと歴史館で学習した平和観音と墜落したB-29について報告しました。戦争の悲惨さを学んだ子どもたちは、次は私たちが伝える番だと

語りました。

また、広島派遣では、広島平和記念資料館を見学して、なぜ広島に原爆が投下されたか、原爆の被害状況や現状について報告し、今後何をしていくべきか考えることが大切だと思うと感想を述べました。その他、展示されていた服や持ち物を見て、恐ろしいと思ったと語りました。平和記念式典では、国や地域を超えて様々な人が参加しているのを見て、世界中の人々が平和について、原爆について考えてくれると感動したと述べました。また、広島県知事の「核抑止とは、あくまで頭の中で構成された概念又は心理、つまりフィクション」という言葉が心に残ったと述べ、平和記念式典の参加は、とても貴重な経験で、これから生きていく時に「平和」について考えさせてくれるとても大切な時間になったと述べました。

〈個人の発表〉

■広島で印象に残ったことは、原爆ドームの骨組みや資料館の遺品などがとても印象に残りました。思ったことは、戦争は、日常を破壊し関係ない人の命を奪う悲惨なことだということです。そして、東大和市の変電所は厚さ80cmの鉄筋コンクリートを貫通またはえぐり飛ばすすごい威力だったということが分かりました。東村山ふるさと歴史館の展示されたものの映像や写真の数々は、とても印象に残っています。

今回の広島派遣事業の「ピースクリエーターになろう」では、新聞やロープを使って、平和について学んだりしました。平和は自分たちで作ることが大事だと思いました。

■私が8月4日から6日にかけて行った広島派遣で、心に残った場所は、原爆ドームとそのすぐそばを流れる元安川についてです。私は、テレビでしか原爆ドームを見たことがなかったのですが、実際に広島に行って見てみると、思っていたより少し大きく感じました。そして、原爆が落とされる前の原爆ドームがどのような姿をしていたのかも初めて知りました。広島県物産陳列館として建てられ、広島県産業奨励館へと名を変え、広島ランドマーク的存在だったことも、今の原爆ドームは当時の広島県産業奨励館の一部しか残っていないということも。この事を知り、原爆ドームは原爆の恐ろしさを伝えていくためにとても大切だと思い、ずっと残していきたいと思いました。そして、元安川などの川に水を求めて被爆した人々が飛び込んでいって、みんな亡くなってしまったから灯籠流しをして慰めるということを知り、とても良い文化だと思い、つないでいかなければならないなと考えました。次の世代の人々に、

原爆の恐ろしさ、戦争の恐ろしさを伝え、戦争は二度と起こしてはいけないと伝えていこうと思いました。

■私は、広島に行って、改めて戦争の恐ろしさについて学ぶことができました。

当時は、子どもも戦う練習をしました。男の子は銃、女の子は竹で作った槍で敵を倒す練習を行い、子どももお国のため、天皇に命を捧げる教育を受けていました。

次に、放射線の被害についてです。放射線は目に見えず、匂いありませんが、体のずっと奥深くまで入り込みます。そして、放射線を大量に受けると、人間の体を作っている細胞が壊れ、体の器官や動きを悪くします。放射線は、しばらくの間地上に残ったため、家族を探したり、傷ついた人を助けるために後から広島市に入った人も病気になるったり、亡くなったりしました。

最後に、私が特に印象に残った活動は、「ピースクリエーターになろう」です。ピースクリエーターになって、私は一人一人が周りの人を思いやってあげれば、戦争はなくなるんじゃないかなと思いました。そして、原爆の恐ろしさを次の世代に伝えていきたいなと思いました。

■私が、広島に行って一番印象に残ったのは、本川小学校です。この小学校は、爆心地から最も近い小学校でした。そこで、児童約400人、先生約10人が亡くなりました。そこで、溶けたガラス瓶やガラス、溶けた瓦が展示されています。他に柱や爆風で曲がった銃、いろいろな資料があります。二番目は原爆の子の像です。上で鶴を持っている子は禎子さんです。てっぺんの横には、子どもが滑り落ちていたり、下に矢印がありました。禎さんは、2歳の時、原爆にあったけど、元気で無傷でした。しかし、段々体の調子が悪くなり、病院に運ばれました。そして、12歳の時、白血病で死亡しました。禎さんは入院中、千羽以上の鶴を折りました。

■みなさん、明日の予定は何ですか。この問いに、今、答えられる人がほとんどでしょう。しかし、80年前はどうだったでしょうか。日々を生き抜くこと、明日を迎えることすらも厳しい世界でした。その中、8月6日午前8時15分、1発の原子爆弾が広島の上空600mのところを、炸裂しました。たった一瞬の出来事で、多くの命が無差別に奪われました。

私は、実際に広島へ足を運び、この残酷で悲惨な出来事を見て、聞いて、肌で感じ、怒りや憎しみと共に、後世へ伝え、二度と同じ過ちを犯してはならない。そう強く感じました。平和記念式典や国立広島原爆死没者追悼平和祈念館、被爆者による講話や広島平和記念資料館など、国や被爆者は知ってもらう努力をしています。また、被爆者の平均年齢が86歳を超えた今、私たちは知る努力、また、後世へ伝える努力が必要なのではないでしょうか。そして、それは、今を生きる私たちの義務ではないでしょうか。「平和とは何か？」それについて考えることが、平和をつなぐ第一歩になると私は思います。

D グループ

地域の戦争・平和学習では、東村山ふるさと歴史館で学習した東京陸軍少年通信兵学校について、自分たちと年の近い15歳前後の子どもたちが、戦争のためだけに育てられた事は、今では考えられない事で、苦しい思いをする人が出ないように、戦争は二度と起きてはいけないことだと身に沁みて感じたと述べました。

また、広島派遣では、被爆者の佐伯克彦さんの講話を聞いて、原爆が落とされたことによって全身火傷を負った人や放射線を浴び、亡くなってしまった人がいること、80年経っても見つからない人が何万人もいることを知り、戦争の悲惨さ、戦争が起きないことの幸せがよく分かったと感想を述べました。原爆ドームでは、ボロボロになった建物を見て、たくさんの建物が失われたというのが分かり、戦争や核兵器の恐ろしさを学んだと述べました。また、広島が軍都として栄えていたことも知り、戦争で栄えるということが嫌だと感じたと発表しました。

〈個人の発表〉

■私はこの広島派遣事業で一番心に残った言葉があります。「正しく原爆について知ることが大切。」被爆者の方々は、原爆症といわれるケロイドなどの形が変わってしまう病気になったり、火傷による炎症により差別されたり、避けられたりしてきました。それは、公共の機関である学校でもあったそうです。

先ほどの「正しく原爆について知ることが大切。」という言葉は、1歳で被爆した佐伯さんによる話の中で出てきた言葉です。佐伯さんは、今年で81歳です。でも、佐伯さんも戦争については、1歳だったこともあり、あまり覚えていないそうです。

佐伯さんを筆頭に、現在、被爆者の平均年齢は高くなっています。そんな現状の今こそ、原爆について、戦争について私たちの世代が正しく知り、伝え、広げていくことが、私は大切だと感じました。

■私が広島派遣事業で印象に残ったことは2つあります。

まず1つ目は、原爆ドームです。原爆ドームの上の部分は、銅で作られているのに、原爆が落ちたことにより、焼けてなくなってしまって、建物も、レンガなどもほぼ壊れてしまい、原爆ドームの中心部分しか残っていなかったからです。

2つ目は、原爆の子の像です。禎子ちゃんが白血病で亡くなってしまったと聞いた子たちがお金をため、原爆の子の像を作ったと聞いて、「すごい。原爆の子の像、子どもたちだけでお金をためて作ったんだな。」と思いました。

私は、広島派遣事業を通して、戦争のことを知り、学んだことを家族などに話して、戦争がないことの幸せなどを知ってもらいたいです。

■袋町小学校は鉄筋コンクリートで3階建てでした。児童、職員約160人が被爆しました。被爆後の校舎は、救護所になりました。原爆の子の像では、塔の上に禎子さんという女の子がいます。禎子さんは、2歳の時に被爆しました。本川小学校は、爆心地から最も近い場所にあった小学校です。約400人の児童と約10人の職員が亡く

りました。

1日目に佐伯さんの話を聞きました。2日目には、袋町小学校や平和記念公園に行きました。3日目には、式典に参加しました。色々な方のお話を聞きました。初めての体験ができて、とてもいい勉強になりました。

■僕は、今回の広島派遣事業で学んだことや思ったことがいくつかあります。

一つ目は、原爆の被害を受けた人で、爆発の衝撃だけでなく、放射線の影響などで苦しんでいる人がいたということです。前まで、原爆の爆発に巻き込まれている人が亡くなっているのだと思っていました。しかし、原爆投下後に広島市に来た方も、放射線の影響を受けたと聞き、驚きました。

二つ目は、「ピースクリエーターになろう」で学んだ「平和とは何か」ということです。僕は、平和とは、今起きている事そのものだと思っていました。しかし、この平和学習を通し、平和とは、その人の気の持ちよう、その人が平和だと思ったら平和なんだろうと思うようになりました。僕は、今、この事業で学んだこと、思ったことを忘れないようにしたいと思いました。

■私は、この広島派遣で興味深かったことが主に二つあります。

一つ目は、平和の難しさについてです。「ピースクリエーターになろう」では、平和の大切さ、平和とはなんだろうという事を考えさせられました。考え、知っていくうちに、平和の難しさ、戦争をなくすことは簡単ではないと感じられました。しかし、広島に行った体験を活かして、自分にできる事をやっていきたいと思いました。

二つ目は、命の大切さです。命は誰しも一つしかないもので、大切にしなければいけません。ですが、戦争は、その一つしかない命を軽く奪ってしまいます。その苦しい中でも、必死に生き残った人もいます。被爆して、生きることを決してやめないことに感動しました。私たちも必死に生きることをこれからも続けていき、また、「命について」を広めていきたいです。



A グループ

平和の重みを胸に、未来へ歩む

石橋 雅幸

この夏、私は東大和市・東村山市の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加し、戦争の歴史と平和の尊さを肌で感じる貴重な機会を得ました。漠然とした知識しかなかった私にとって、この経験は過去の悲劇を単なる出来事としてではなく、「未来を生きる私たちの責任」として捉え直す貴重な経験となりました。

まず事前学習で、地元に残る戦争の痕跡を見学し、衝撃を受けました。教科書で読んでいた空襲や銃撃の跡を、建物の壁に残る無数の穴や傷として実際に見て、戦争が遠い場所の出来事ではなかったのだと痛感したからです。旧日立航空機株式会社変電所の見学では200キログラムの実物大爆弾の模型もあり、その重さと大きさから当時の人々の絶望を想像すると、ただただ圧倒されました。この時、私は広島で何が起きたのかをしっかりと知らなければいけないと覚悟を決めていました。

広島に降り立ち、最初に訪れた平和記念公園は、想像していた以上の静けさと、張り詰めた空気感に満ちていました。緑豊かな美しい公園の中央に、痛々しい姿の原爆ドームが静かに佇んでいる様子は、過去の悲劇と現在の平和が共存していることを象徴しているようでした。広島平和記念資料館へと続く道すがら、その姿を見つめていると戦争が人々の日常をいかに一瞬で破壊したのか、その重い歴史がひしひしと伝わってきました。

最も心に深く残っているのは、広島平和記念資料館で目にした数々の遺品です。焼け焦げたお弁当箱、ぼろぼろになった服、そして溶けてしまったガラスの破片。それらは、一つ一つが人生の物語を語りかけているかのようでした。特に、佐々木禎子さんの物語と共に展示されていた折り鶴を見たとき、「願いを込めて折り鶴を折る」という

ささやかな希望と、幼いころの被爆が原因で長い時間がたってもしまなければいけないという絶望が伝わってきました。また、被爆体験者の方からも貴重なお話を聞くことができました。静かで力強い語り口から伝わってくる当時の様子は、私たちが決して忘れてはならない真実でした。その言葉の一つひとつが、平和への強い願いと、二度と同じ過ちを繰り返してはならないという切なる思いに満ちていました。

最終日、私は平和記念式典に参加し、世界中から集まった人々と共に平和への祈りを捧げました。子ども代表が語る「平和への誓い」は、自分とあまり年の変わらない世代の人が、力強く未来を語る姿に胸を打たれました。それは、平和が過去の犠牲の上に成り立つだけでなく、私たち一人ひとりが築き、守り、そして次の世代へと繋いでいくべきものだということを教えてくれました。

この派遣事業は、私にとって大きな転機となりました。これまでの平和への認識は、ただ「争がないこと」という受動的なものでしたが、今では「平和を能動的に創り出し、守り続ける」という、より深い意味を持つようになりました。今回の経験で得た学びと、胸に刻まれた平和への想いを、単なる記憶として心に留めておくだけでなく、自分の言葉で周りの人々に語り継ぎ、未来に貢献していきたいと考えています。平和を築く小さな一歩を、今日から踏み出していこうと思います。



この事業を通して考えたこと・学んだこと

泉 舞歩

私はこの地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業を通してとても勉強になりました。

私は広島へ行く前までは、それほど戦争や平和のイメージが浮かばなかったです。平和とは戦争がなかったら平和なのではないかと考えていました。ただその考えを改める機会ピースクリエーターがありました。ピースクリエーターでは長いロープの端と端をみんなで持ち片方は青の平和である、赤は平和でないと決めお題に沿って自分はどっちなのかと考えて動くようなことをしました。そしてそのお題の中には「今、日本は平和か？」というお題がありました。みんなの理由を聞くとどれも納得いきました。それを聞いた上で私の考えは、「今、日本は事故や事件、自然災害があるから完璧に平和であると言えないが、大きな争いが他国と比べたら少ないから平和寄りではあると考えました。しかし、自分の国だけ助かれれば平和とは考えられません。今、世界では戦争をしている国があります。自分の国だけではなく他国も平和になればいいな」と考えました。

他に広島派遣事業へ行き学んだことは、戦争がどんなに恐ろしかったものかということです。特に実感したところは広島平和記念資料館です。そこで展示されているものは当時の写真、焼き焦げた弁当などが展示されていました。私はそれらを見て本当に80年前ここで起こったものなのかと信じられませんでした。それほど私にとって、衝撃的でした。新しく知れば知るほど当時の状況が頭に浮かびました。当時の人たちは日々どのようなことを思って生きていたんだろう、戦争についてどういった思いがあったのだろうかと考えました。もしかしたらそういった思いをする暇もなかったのではないかと考えました。

新しく知った話で印象に残ったものは、被爆者

体験講話の佐伯さんの話で戦後の話です。私がイメージしてた戦後の様子は、人々がお互いに助け合い、励まし合いながら過ごしていたのではないかとイメージしていました。ただ実際は後遺症で子どもに遺伝して



しまうかもしれないという理由で結婚が出来ずに独りで生き生涯を終えてしまう人もいたことを知りました。他には原爆の子の像のモデルとなった佐々木禎子さんは放射線被爆による後影響で白血病になってしまった場合もあることです。これらを初めて聞いた時は、なんでせっかく助かったのにこんな不幸せに人生を終えてしまわなきゃいけないのか、この人たちは何も関係ないのに勝手に巻き込まれなきゃいけないのかと疑問がたくさん生まれました。

私はこの広島派遣事業を通して一番考え思ったことは命はいつなくなるのかわからないということです。絶対に起きてほしくないけど、いつまた日本が戦争するかもしれない、急に事故に遭うかもしれない、事件に巻き込まれてしまうかもしれないと考えると今生きているこの瞬間一秒一秒毎日を大切に過ごしていきたいなと思いました。自分の命も他者の命も同じくらい大切にしていきたいとも思いました。改めて命の尊さ、平和をこの事業を通して学べてとてもよかったなと思いました。

広島派遣事業に参加して学んだこと

淵上 心結

私は、小学校の授業以外で戦争に関して勉強したことがありませんでした。たくさん死者がいたこと、原爆の形が楕円だったことなど些細なことしか知りませんでした。今回、戦争について改めて勉強し、今後役に立つかもと思い、この事業に参加しました。

事前学習で変電所に行き、ここから電気を軍需工場へ送るための建物だったこと、また、変電所の前にある公園に第二次世界大戦用の飛行機のエンジンを作るための第一工場があったことを知りました。

広島派遣事業が始まり、二日目の袋町小学校平和資料館が印象に残りました。袋町小学校では、唯一鉄筋コンクリートで造られた西校舎の外側だけが原型をとどめ、避難場所や救護所として利用されました。また、被爆者の方々は階段の下付近の床に散らばるわずかなチョークで、焼けた壁に消息を知らせる伝言を書きました。私はこの伝言を見た時、原爆が落とされてパニックになっている状況で、伝言を残そうと思った必死さに驚きました。

三日目には、広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式にも参加しました。被爆80周年ということもあり、式典では広島市長や広島市議会議長、広島県知事だけでなく、内閣総理大臣や国際連合事務総長、120か国以上の関係者も参列しました。また、被爆者の方たちも参加されました。会場は静まり返っていました。私は平和への誓いが印象的でした。広島の小学六年生二人の代表が、平和を誓う文章を読み上げました。私はこの文章の「どんなに時が流れても、あの悲劇を風化させず、記録として被爆者の声を次の世代へ語り継いでいく使命が、私たちにはあります。」という言葉に、これから自分も後世に伝えていく事の大切さに気

付きました。そして、「もう戦争は繰り返さない!」と何回も言っていることから、強く平和を望んでいることが分かりました。

そして、特に印象に残ったことは被爆者体験講話です。朝8時15分に、見たこともないまぶしい光がして、しばらくして「ドン」と大きな音がしました。家具が一斉に全部壊れ、何が起きたのかよく分からなかったそうです。皮膚がただれて焼け落ちた人が大勢いて、想像を絶する状況だと感じました。上流から死体と血に染まった水が流れてきた事を「死人の川」と呼んでいたそうです。数人ではなく、多くの人が死んでしまい、悲惨だと思いました。また、軍人が「水を飲んだら死ぬ」という根拠のないことを言い、水を飲みたかった人々が死んでしまった出来事を聞きました。軍人が誰かからの情報を信じて、人々を助けようと言ったはずなのに、結果、嘘をながしてしまい、嫌われて可哀そうだなと思いました。

この広島派遣事業に参加し、戦争について身近なことももっと理解したいと思いました。例えば、東大和市の変電所の前にあった第一工場は飛行機のエンジンを作るためだけにあったのかなど、さらに調べてみたいことが増えました。また、これからはこの事業で学んだことを活かして、後世に語り継いでいく役割を果たしたいです。



広島派遣で学んだこと

島崎 友花

私は、戦争のことを知っていましたが、広島県での出来事については知りませんでした。だから、この広島派遣事業で広島県に行ってみたくと思いました。みんなと一緒に学習をする中で、戦争のことをもっと知りたくなりました。

初日は、TKPガーデンシティ PREMIUMで被爆者の方の体験講話を聞きました。原爆にあった人だけでなく、落ちてきた後に様子を見に来た人も亡くなっていることを知って悲しかったです。被爆者の方は、体験を詳しく話してくれました。原爆が落ちてきた時の様子を直接聞けてうれしかったです。

2日目は、三井ガーデンホテル広島から、袋町小学校平和資料館に行きました。コンクリートの丈夫なところは残り、中はすすと炭だらけになっていました。その黒くなった壁に、チョークで探しに来た人の名前が書いてありました。その後、修理をして一度その黒い壁が見えなくなりましたが、また修理をした時に、チョークの壁が出てきて今見られるようになりました。そのことを聞いて、その時の出来事を直接見る事ができて感動しました。

次に、爆心地に行き、そのそばの原爆ドームを見ました。そして、原爆の子の像を見ました。像にはモデルになった子が実在したのです。その像は、両手を高くかかげていて、折りづるを持っています。被爆した子どもです。直後は元気でしたが、次第に白血病の症状がひどくなりました。お見舞いに行かなかった友だちは、うつるといやだと思ったから行きませんでした。その事を後悔して像と鐘をつくりました。その像の下には石があって像の女の子のクラスの子もたちが女の子を思って字を刻みました。私は、女の子の病気の事を考えると切なくなりました。

その次に、広島平和記念資料館に行きました。そこで、原爆は地上に落ちて爆発したのではなく、上空で爆発していたことを知りました。上空で爆発したのに被害がたくさん出たので威力がとても強いものだと分かりました。でも、山の後ろにある家は、壊れずに無事だったところもあると知って、びっくりしました。

2日目の中で一番印象に残っていることは、「アオギリの木」です。広島平和記念資料館の前に植えてある「アオギリの木」は、移植された木です。原爆の被害を受けた広島で、一番最初に芽を吹き返した木です。この出来事は、当時の人たちに生きる勇気を与えました。私はただの木なのに、人に生きる勇気を与えるものがあると知って驚きました。

3日目に平和記念式典に参加しました。「平和への誓い」の言葉は同い年くらいの小学生が沢山の人の前で話しをしていました。誓いの内容の平和への思いを堂々と伝えていたことがすごいなと思いました。

最後に私は、平和が世界に必要なことと原爆は世界にあってはいけないものだと知りました。争いのない世界になるように、この経験をまわりの人や友達や、先生たちに伝えていきたいです。



B グループ

平和のカタチ

淵上 眞妃

私はこの事業を通し、今まで学校の授業で学んできたことよりも詳しく、普段の生活の中からは想像も出来ないような大切な体験を数多く学ぶことが出来ました。

一日目は佐伯克彦さんの被爆者体験講話を聞かせていただきました。お話を聞いていると、目の前に小さなスクリーンで映し出されているかのような感覚になりました。しかし、本当の戦争というものは自分が想像していたよりもはるかに悲惨だったという事が翌日からより強く感じるようになりました。

二日目には袋町小学校平和資料館に訪れました。そこでは焼けてしまった学校の壁を黒板の代わりに使用し、自分の消息を書いていたと聞きました。実際に残っていた文字を見ると、たくさんの文字が重なっていたり、地図が書いてあったりして、『今生き延びること』が大切でとても辛い事が想像できました。また、自分の消息を書いても実際に家族や大切な人と会えるかどうかは分からないという残酷なものだと痛いほど心に残りました。他にも実際に原爆が落ちた爆心地、原爆ドームや平和の灯などのたくさんの場所に行きましたが、特に本川小学校平和資料館が衝撃的な場所でした。そこには原爆が落ちた後の模型が置いてありました。原爆ドームが骨組みだけでも残っている事の凄さや爆心地の下は丸焦げで、山の後ろは爆心地の所と比べてあまり家が壊れてなく、場所によって被害の大きさが変わる事などたくさんの事を知る良い機会になりました。二日目の最後には「ピースクリエーターになろう」という活動があり、そこでは自分と同じように平和だと思っても一人一人が違う視点から考えていてとても勉強になりました。

最終日の三日目では式典に参加しました。その最中にこども代表の言葉があり、「その事実を自分の事として考え、平和について関心を持つこと。多様性を認め相手の事を理解しようとする事。」という言葉にとっても心が動かされました。また、

代表の人たちの話し方が一つ一つ丁寧に重く、心が自然と話している人たちの方へ向いていました。その後、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館に訪れました。この中央の場所に原爆が投下された8時15分を表し、水を求めて亡くなった方々を追悼するために水を捧げている水盤がありました。他にも爆心地から見た被爆後の風景があり、その下には当時の町の名前が記載されていたり、様々な思いが込められている事が分かる場所でした。

この三日間を通して、いくつも貴重な体験をさせていただきました。今まで授業で習って知っている場所もありましたが、それ以上に詳しく知ることが出来ました。実際に模型が目の前にあった事、ビデオで聞く体験談と実際に対面して話を聞くのでは別物といえるほど気持ちが動かされた事など、参加したからこそ出来る体験がありました。「ピースクリエーターになろう」でお題に出ていた『平和とは』は、今でもはっきり言い表せないけれども、それは一人一人が違う平和のカタチを持っていて、必ずしも自分の思っている平和は正しいわけではないという事に気付く事が出来て良かったです。一人一人が違う思いを持っていても、「そんな考えもある」と気付きに変わっていったら、少しずつでも平和に繋がっていくのではないかと思います。だからこそ、戦争に限らず日々の生活でもこのことを意識し、大切にしながら過ごしていこうと思いました。



これから私が伝えていきたいこと

樋口 結子

初めて袋町小学校平和資料館の黒い壁の写真を見た時、「大きい黒板だなあ」なんて、こんな軽い気持ちで見えていました。

8月4日から3日間、広島へ訪問しました。この3日間、いろいろな所へ行きましたが、その中でも特に印象に残っている、袋町小学校平和資料館について、お話をさせていただきます。

爆心地から460mの位置にある袋町小学校は、原爆によって大きな被害を受けました。当時、多くの児童は疎開により被災を免れましたが、残っていた児童のほとんどが一瞬にして命を失いました。木造校舎はすべて倒壊・全焼し、唯一鉄筋コンクリート造だった西校舎だけが外郭のみ原形をとどめたそうです。被爆直後から被災者の救護所として利用された西校舎内の壁面は、爆風によって飛んできた煤で汚れ、真っ黒になってしまいました。小学校だったため、チョークがたくさん落ちており、被災者の方たちは、自分の消息などを知らせる「伝言」を書きました。数多く残された「伝言」は、現在も残されています。

資料館の地下では、被災者の方や、被災者の家族の方たちのお話の動画を見ました。その中の1人のお話で、「この伝言は、あの日生きていた姉のようだ。」と言っている方がいました。その後、この壁を間近に見た時、当時は「伝言」だったかもしれなかったけれど、私は、「あの日の人々の声がそのまま収められているようだな。」と思うようになりました。

1946年6月、被爆からおよそ10か月後、生き残った教員や町の人々の努力により、全児童37名でようやく学校が再開されました。当時の写真を見ると、黒板は立てかけるように置いてあり、壁や床はボロボロ、窓はなく、ランドセルを持っている子はほんの数名しかいません。それでも子供

たちは、先生の話真剣に聞いています。今の私たちは、「学校に行きたくない」だとか、「学校やだなー」などと思ったりもしますが、当時の子供たちは、学校に行って友達に会えることが、何よりの喜びだったのだと、この写真を見て実感しました。

最後に、これからの私たちについてです。今回私は、平和学習をするために広島に行きましたが、これから私たちがしなければいけないことは何なのでしょう。私は、次の世代に伝えていくことだと思います。被爆者体験講話での佐伯さんのお話で、こんなことを仰っていました。広島のこと、私たち語り部が伝えていくから、皆さんには、自分たちの地域のことを伝えていって欲しい。この言葉を聞いて、私が伝えていきたいことは、「自分たちは直接、戦争には関わっていないけれど、自分たちの身近な地域にも、戦争はあったんだよ。」ということです。

私はこれから、広島に行った経験を活かして、世の中の見方や、自分の進んでいく方向などを考えていきたいと思っています。



僕が広島で学んだこと

神田 悠司

私は広島派遣事業に行き、三つのことについて考えました。

一つ目は命の大切さについてです。広島平和記念資料館では、死の斑点が出た兵士、貞子さんが折った鶴などがありました。他にも貞子さんをモチーフとした原爆の子の像などもありました。特に印象に残ったものは、貞子さんが祈った鶴です。貞子さんが折った鶴の一つ一つから、「死にたくない」という思いが伝わってきました。そして貞子さんと同じように生きてくても生きられずに亡くなってしまった方が大勢いることを知りました。そして、展示物などを見て、命の重さを実感しました。生きてくても生きられない人が大勢いた事実を知り、今までは軽い気持ちで友達にきつい言葉を言うてしまうことがありましたが、他の人を大切にし、自分も一生懸命生きていこうと思いました。

二つ目は原爆の被害についてです。広島平和記念資料館では人影の石、8時15分で止まった時計、しげるくん弁当などもありました。この中で特に印象に残ったのは人影の石です。人影の石とは、原爆が落ちた時、原爆の熱線で人が座っていた石段が白っぽくなり、人影だけが残ってしまったものです。これらは当時の原爆がどれほどの被害をもたらしたのかを物語っており、それを目の当たりにした時、こんなことが実際にあったのかと驚き衝撃を受けました。また、その時だけではなく、体に全身火傷を負いケロイドになったり、白血病を発症した人がいたことを知りました。他にも原爆の被害者というだけで差別を受けた人がいることを知りました。原爆は投下された時だけではなく、その後も多くの人々に大きな被害をもたらし、苦しめたことを知りました。これらのことから、核兵器一つだけで多くの人々の命が失われさまざま

な被害をもたらしてしまうため核兵器はなくなるべきだと思いました。

三つ目は自分たちができることについてです。

広島派遣事業に参加して、核兵器は、一瞬でたくさんの人の命を奪ってしまい、

人々のくらしを壊してしまいました。そのことを思うと、今も核兵器を保有している国があるためとても残酷なことだと感じました。広島平和記念資料館の展示の中には、当時の写真や、実際に原爆の被害を受けたものもあり、原爆の怖さをはっきりと感ずることができました。

今回は広島平和記念資料館での見学時間も限られており、展示をじっくり見ることはできなかったので、また行き、もっと詳しく知りたいと思いました。私は、このような恐ろしい原爆や核兵器は、二度と使われてはいけなと思います。世界からなくなってほしいです。少しずつでも減らしていくことが大切だと考えるようになりました。自分たちができることは学んだことを友達や知り合いに伝え、核兵器の恐ろしさを知ってもらい原爆が多くの人々に被害をもたらしたことを風化させないことだと思います。これからも原爆について学び続けて、少しでも多くの人に原爆がどんな被害をもたらしたのか知ってもらい、核兵器をなくしていきたいです。



僕が知った、戦争、平和のこと

上野 結太呂

僕は、この地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業で、戦争の悲惨さ、おそろしさ、平和の重要性、命の尊さを勉強しました。

地域の戦争・平和学習会では、東村山ふるさと歴史館や旧日立航空機株式会社変電所を見学しました。東村山ふるさと歴史館では、市内にあった戦争関連施設について学んだりしました。その中でもモールス信号の学校が印象に残りました。なぜ、印象に残ったかという、中学生ぐらいの年の子が、戦争に関わるモールス信号の勉強をしていたことにおどろいたからです。

旧日立航空機株式会社変電所では、アメリカ軍から、1800発あまりの爆弾による攻撃を受け、111名もの方が命を落としたことが分かりました。変電所の外側の攻撃をされた傷を見て、戦争の攻撃の被害の大きさを改めて知りました。

広島派遣の1日目は、被爆者体験講話 佐伯克彦さんのお話を聞きました。佐伯克彦さんは当時1歳で被爆しました。被爆したと言うだけで差別をされてしまうことを聞いて、原爆は人の命もうばい、人生までもうばうのかと思いました。佐伯さんに教えてもらった、原爆を正しく知ること、想像すること、自分の命も他者の命も大切にすること、この言葉を想像しながら明日からの広島を見ていこう、そう思いました。

2日目は、広島にある色々な資料館へ行って、原爆によってどのような被害にあったのかを学びました。

袋町小学校平和資料館では、入ってすぐに見た、階段の横の黒い壁に被爆者の消息を知らせる伝言を見て、被爆当時の広島が過酷な状況だったことが分かりました。

爆心地「島病院」へ行って建物の横にある説明板の被爆当時の写真の島病院は形がほとんど残ってなく、原爆の威力の恐ろしさを知りました。

原爆ドームは、被爆前の時より4分の一ぐらいしか残ってなく、原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さを知りました。

本川小学校平和資料館は、爆心地から一番近い小学校で、約400人もの方が命がうばわれました。

その中で、児童1名「居森清子さん」が生き残り、その後の人生で僕たちが聞いた、被爆者体験講話の講師の活動などをしたと書いてありました。これを読んで、居森さんは、原爆でつらい思いをしたのに「戦争はだめなんだよ。」という言葉伝えるために、思いだしたくない記憶を教えてくださいなんて、それほど戦争がおそろしかったことがわかりました。

広島平和記念資料館では、原爆投下の瞬間を再現したホワイトパノラマ、被爆者の遺品などがあります。中でも、被爆者の写真、絵は見るとこわくなりました。でもこのようなことが本当にあったことをわすれてはいけません。

ピースクリエイターになろうでは、「今の日本は平和ですか?」「自分は平和的な人ですか?」と質問されたり、新聞記事などを読み平和なのか、平和ではないのかと分類しました。この学習では、戦争以外にも平和ではないものがあると知りました。

3日目は、式典に参加し、もう一つ、被爆者を追悼しているところへ行きました。

平和祈念式典では、外国人も参加していて、日本人だけではなく、外国人も平和を願っていることを改めて知りました。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館では、亡くなった被爆者の名前、遺影がありました。追悼されている人が多くて、それほどのぎせい者がいたと、改めて知りました。

僕は、この事業で多くのことを学びました。戦争はしてはいけませんと知り、戦争以外にも平和ではないことは多くある、平和にしようと思えば少しでも平和になるかもしれない、だから今回経験したことを、わすれないようにします。



広島で学んだこと

澤田 彩花

私は、この広島派遣事業に参加して思ったことが3つあります。

1つ目は、戦争はとても悲しいことだということです。まず広島平和記念資料館に行って、展示されている物を見ると、すべて焼けこげていたり、ぼろぼろになっていたりして、すべてがとても悲惨な姿でした。また国立広島原爆死没者追悼平和祈念館では、水が捧げられていたことが特に心に残りました。その水は、当時「水を飲んだら死んでしまう」という軍人の人の言葉を信じ、亡くなってしまった方に捧げるためのものであるそうです。さらに、壁には、原爆が落ちたあとの写真が貼られていて、まわりがほとんど何も無い状態になっていたことが分かり、中でも原爆ドームだけが残っていたことが印象的でした。

2つ目は、とても辛く、大変な状況の中でも生き抜いてこられた方がいたということへの驚きです。そのように思ったきっかけは、被爆者体験講話を聞いたことでした。被爆者体験講話で話して下さった佐伯さんは、爆心地から約4km離れたところで被爆したそうです。佐伯さんがいた場所には、被爆して火傷を負ってしまった多くの人たちが近くの学校に避難してきたそうです。避難して来た人は、ほぼ全員が全身火傷で手を前に出しながらやってきたらしく、これは、火傷の影響で皮膚と皮膚が擦れ合うと、とても痛かったためだとおっしゃっていました。また佐伯さんが小学生になると、学校の校庭には、死んでしまった人たちが埋まっているといううわさが流れていたそうで、それを聞いた私は、学校に埋めるほど亡くなってしまった人たちがいたということに衝撃を受けました。

3つ目は、「なぜ世界から原子爆弾がなくならないのだろうか」という疑問です。広島平和記念

資料館や国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の展示を見たり、佐伯さんのお話を聞いたりしたことから、多くの方がけがをしたり、家を失くしてしまったりして、辛い思いをされていたことがひしひしと伝わってきました。私はそれを通して原爆が普通の爆弾の何十倍もの威力だということを知りました。それとともに、原爆が早くなくなってほしいと思いました。その上で世界にはまだ原子爆弾を持っている国があるということを知り、原子爆弾はなくすべきであるにも関わらず、いまだに持っている国が多いことをとても不思議に思いました。

このように私は、この派遣事業に参加して、命の大切さをあらためて実感しました。私は、この事業に参加するまでは、あまり戦争に興味を持ったことがなかったのですが、派遣事業に参加したことで、原爆はこれほど悲惨なものだったのだと知りました。もう二度とこのような悲しい戦争が起らないように、平和について自分にもできることを考えて行動していきたいです。



C グループ

平和のために

中島 柚羽

私は、地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業を通して、命の重みと、平和の貴重さを学びました。特に印象の強かった場所・経験は3つあります。

1つ目は、広島平和記念資料館です。ここでは、当時の戦争の光景や原爆投下直後の光景などが、絵で生々しく描かれていました。また、人々が着ていた衣服や、乗っていたであろう自転車や三輪車、中身が黒こげになったお弁当箱など、多くの遺品が展示されていました。原子爆弾の構造や威力といった情報も学ぶことができました。この資料館で、戦争についての知識や考えを深めることができました。

2つ目は、被爆者体験講話聴講です。この講話では、当時を生きた人のリアルな体験や感情を聞きました。特に、爆心地に近かった小学校の校庭が臨時火葬場になっていたことや、学生も戦争関連の仕事をしていた、という、自分の年齢に近かったり、現代ではあり得ないようなことが心に残りました。被爆者の平均年齢が年々上がっていく中で、このような貴重な経験ができて良かったな、と思います。

3つ目は、平和記念式典です。この式典には、色々な場所で、多くのことを学んだ後である最終日に参加したため、考えさせられることがたくさんありました。特に印象に残ったのは、広島市の小学生ら2人によるスピーチです。私よりも若く、年下なのに、世界へ向けて平和への願いを訴えている姿を見て、とても感動しました。

私は、これらの経験を通し、正しい情報を未来へ、より1人でも多く伝えていこう、と思いました。例えば、家族や友人・知人に話すこと、SNS

Sなどを通じてより多くの人、特に若者に伝えることができます。

しかし現在、世界を見渡すと、戦争をしている国や地域があり、報道では、平和についてではなく、悲惨な戦争の様子が多く報じられています。私は、同じ種族である人間同士で争い合うのではなく、SDGsや環境・資源問題など、人類が直面している課題について、手を取り合い、対策していく必要があると思います。

過去にあった悲惨な出来事を決して忘れず、後世へ語り継ぎ、二度と同じ過ちを犯さないようにすることが大切だと思います。また、今生きていること、自分の生きる環境が平和である、自由がある、という当たり前の日常に感謝していこうと思います。



広島で学んだ平和の光

鈴木 煌汰

今年の夏休み、ぼくは市役所の事業に参加して、広島へ行きました。自分が選ばれるとは思っていませんでしたので、少しの不安がありました。でも、平和学習を通して、原爆や戦争について学びたいという気持ちが大きくなりました。

広島のパークは、木々が茂り、きれいな川が流れていて、穏やかな雰囲気でした。でも、その美しい景色の中にも、原爆ドームが静かにたたずんでいるのを見て、崩れ落ちた建物が、八十年前のあの日の悲劇を語っているようでした。

資料館の中に入ると、展示されているのは、お弁当箱、三輪車、たくさんの写真……。特に、当時ぼくと同じくらいの年だった中学生が身につけていた服や、持っていたお弁当箱が目に入ったとき、ぼくは言葉を失いました。お母さんが心を込めて作ってくれたお弁当を、食べることなく命を落としてしまった男の子。写真に写っている、大やけどを負った人たちの姿は、ぼくの想像をはるかに超えるものでした。

被爆体験者の話を聞く時間もありました。耳を澄まして聞いたその話は、本や教科書で知っていたこととはまったくちがいました。命が奪われる悲しみ、家族を失う苦しみ、そして、生き残った後の長くつらい日々。被爆者の方は、戦争を憎んでいるわけではなく、「二度とこんな悲劇を繰り返してはいけない」と、ぼくたちに平和への思いを語りかけてくれました。

原爆の子の像の前で手を合わせました。そこには、世界中から送られてきたたくさんの千羽鶴が飾られていました。一枚一枚の紙に病気と闘いながら、平和を願って鶴を折り続けた佐々木禎子さんの話、決して忘れてはいけない物語です。ぼくも、平和への思いを込めて、みんなで折った千羽鶴を捧げました。

今回の広島への訪問で、戦争は、特別な人だけが巻き込まれるものではないと感じました。普通に生活していた、ぼくたちと同じような人々が、ある日突然、大切なものをすべて奪われてしまった。戦争は、人々の命だけでなく、夢や希望、幸せな未来まで、すべてを奪っていくのです。ぼくたちが平和に暮らせることは、当たり前ではない。八十年前、たくさんの犠牲があつて、今の平和があることを、忘れてはいけないと思いました。ぼくたちが大人になるころには、被爆体験者の方々から直接お話を聞くことが、ほとんどできなくなってしまうかもしれません。だからこそ、ぼくは、今回広島で学んだことを、風化させず、しっかりと次の世代へと伝えていかなければならないと、感じています。今回市役所の事業に参加したことを、学校の友達や家族に話すこと。そして、身近なところで、争いをなくす努力をすること。そうした事が、やがて平和へとつながっていくと思います。広島で見た平和の光を未来へつないでいくために、行動していきたいとおもいます。

いつか戦争がなくなった世界で、広島のパークが穏やかな場所として見られる日が来ることを、ぼくは願っています。



ヒロシマの有る国

河井 にご

私は、広島に行って戦争の闇を知りました。自分が思っていた、知っていたことの何倍もおそろしい真実を。小学校で学んだ戦争よりも何倍も痛ましい現実を。

私が戦争について詳しく知りたくなったのは、2022年。ロシアがウクライナに侵略し、その2カ国による戦争が始まったときでした。テレビ越しに目に入ってくる崩壊したビル、逃げ惑う人々、ロシア兵の訓練の様子…。これは本当に戦争なのか、フェイクではないのか、と思いました。当時私はまだ3年生でしたが、戦争はしてはならないということぐらいは知っていました。そして、この時なぜ戦争はしてはならないのかも、テレビで知りました。もっと詳しく戦争について知りたいと考え、私はネットやテレビで調べることにしました。そして知るのです。日本がアメリカの真珠湾を攻撃し始めた太平洋戦争のことを。

そして月日は流れ2023年、2024年頃になると、すっかりウクライナやロシアの話はニュースで流れなくなり、代わりにイスラエルとパレスチナの戦争のニュースが流れるようになりました。もう二度も世界大戦をして、戦争はいけないことだと分かっているはずなのに、次から次へと戦争が起こるのです。日本が戦争に巻き込まれる可能性もあるのではないかとニュースを見るたびに思いました。そしてその少し前には北朝鮮が発射した弾道ミサイルが青森県上空を通過しました。少し何か狂えば青森県にミサイルが落ちていた可能性もある、とても危険な行為を北朝鮮は世界中が平和を願っている真っ只中でしたのです。ああ、なんかこれ本当にヤバい気がするな、と思いました。そのあと何度か何度も北朝鮮はミサイルを発射しました。でも日本に落ちることはなく、ひと安心でした。そんな頃に、この広島派遣事業の存在を知ったのです。5年生の時に行けませんでした。6年生の時はずいぶん忙しくて応募することができませんでした。ですが、ついに今年は参加することができました。

地域の戦争・平和学習では、東村山市と東大和市にある戦争や平和に関するものをたくさん見ま

した。東大和の旧日立航空機株式会社変電所にはこの施設の空襲で亡くなった人々の名前や性別、年齢などが記載されているものがあつたり、実寸大の爆弾の模型や米軍の攻撃でボコボコになった壁など、戦争の被害を伝えるものが大量にありました。被爆アオギリの2世が広島市から東大和市まで平和の象徴としてやってきたのもすごく心に残りました。東村山市にはB-29が墜落した場所に搭乗員11名の慰霊碑があつたり、ふるさと歴史館に戦争の遺物があつたりしました。教科書で見ると学ぶという事とは少し違う学びと気づきを得ました。これらよりさらに衝撃を受けたのは、やっぱり広島平和記念資料館の展示物です。

広島平和記念資料館にはCGで再現された原爆投下の瞬間の様子や、佐々木禎子さんが折った折り鶴、女性や子どもたちの服にしげるくんのお弁当、誰かが座っていた場所だけが黒くなっているコンクリートなど、衝撃的なものが数多く展示されていました。その中でも、私の心に残ったのは被爆した人々の絵や写真です。教科書などには載らない、真実を伝えてくれる写真でした。皮膚がただれ、体にうじがわき、眼球がドロリと落ちそうになっている人々…。彼らを見て、私は私が今まで思っていたより何倍もおそろしい事実を知りました。見るだけで体が痛く感じるほど衝撃的でした。本当に。戦争はもう二度と繰り返してはならないものだ、改めて思いました。そして、今日の平和がどれだけ幸せなことで、どれだけ尊いことなのか…。

少し話は変わりますが、私が通う中学校では3年生が合唱コンクールで「ヒロシマの有る国で」を歌います。このように終戦から何年たってもあの時代を風化させず、繋いでいくことが大切なのではないかと私は思いました。



広島で学んだ私たちの使命

山田 杏菜

私は広島派遣事業に参加して戦争というものへの考え方が変わりました。

この事業に参加する前は頭のどこかで戦争は恐ろしいものだとは分かっていても強い恐怖は感じられませんでした。ですが、この広島派遣事業を通し、戦争は恐ろしいという言葉ではあらわせないほどのものだということが分かりました。

戦争というものに対する考え方が変わったのは、広島での2日目に行った広島平和記念資料館で、原爆の熱線でやけどをして苦しんでいる人や、放射線のえいきょうでかみの毛がぬけてしまった姉弟、爆風でこわれてしまった建物などの写真や絵を見たからです。

写真に写ってる人たちはとてもつらそうな顔の人がほとんどで、見ているのが苦しいほどでした。

そして、おなじく2日目に行った袋町小学校平和資料館では、階段の壁面に被爆者の消息を知らせる多くの伝言が残されていました。その文字を見て当時の人々の恐ろしい、怖いなどの思いがいたいほど伝わってくるようで原爆、戦争の恐ろしさを改めて感じさせられるものでした。

3日目に行った平和記念式典では原爆の犠牲になられたかたに哀悼の意を込め、恒久平和を祈って黙とうを捧げました。

式典には外国からの参加者の方々も多く来ており、核兵器廃絶は日本だけの問題ではなく世界の問題なんだと実感しました。

そして、広島被爆者体験講話の聴講では、被爆者の佐伯さんに被爆当時の様子をお聞きました。原爆からは、熱線や爆風のほかに、放射線というものが大量に出るということを知りました。

そして、その大量の放射線を受けると最初は吐き気や脱毛、血液細胞の減少などの症状がおきますが、数か月～数年後にはがんや白内障が発症し

やすくなるそうです。また、放射線を大量に受けた人が子供を産むと、子孫に遺伝子異常が起こるリスクがわずかに高まる可能性があり結婚を断わられてしまうため、自分が被爆者だということをかかして、結婚をする人は少なくなかったそうです。私は佐伯さんの話を聞いて戦争が終わった後もつらい思いをしていた人がたくさんいたと知り被爆者の中ではまだ戦争は続いているんだと実感しました。

次に、私の中で特に印象に残ったことは2つあり、1つ目は広島で移動する時に乗った、路面電車です。広島のを走るところを見て80年前もこんなかんじだったのかなと少し考えたりもしました。

2つ目はピースクリエイターです。私たちの身近にある、ロープや新聞を使って平和について考えました。あらためて「平和とは何か?」と聞かれるとむずかしく、平和について深く考える機会になりました。

最後にこの事業を通して、私は一人一人が周りの人を思いやってあげれば、平和というものをつくる事が出来るかもしれないと思いました。そして平和を私たちがつくっていかねばならないと感じました。



広島派遣事業に参加して

打越 柑奈

私は日本で生まれましたが、1歳のときに海外へ引越し、今年の春までイギリスに住んでいました。そのため、日本の戦争や広島の前爆については、詳しいことは知りませんでした。母から広島派遣事業の話聞いたときも、最初はよく分かりませんでした。しかし、「なぜ戦争が起きたのか」という疑問があり、それを知りたいと思って参加しました。

広島で見たたり聞いたりした中で、特に心に残ったことが三つあります。

一つ目は、広島平和記念資料館です。そこでは、被爆した人々の絵や写真、つぶれた水筒やぼろぼろの洋服などが展示されていて、とても衝撃を受けました。戦争がどれほど残酷で、人々の生活を壊してしまうものなのかがよく分かり、胸が痛くなりました。

二つ目は、原爆ドームです。銅でできた屋根が原爆の熱で溶けてしまったと聞いて、原爆の威力の強さに驚きました。今も世界には原爆を持っている国があると知り、それがとても恐ろしいことだと感じました。

三つ目は、原爆の子の像です。私と同じ10歳の女の子だった貞子さんが、原爆による病気で苦しみながらも、千羽鶴を折り続けたという話を聞いて、「生きたい」という強い気持ちが伝わってきました。私も貞子さんのように、どんなときでも強く生きていきたいと思いました。

この事業を通して、戦争は国が自分の領土を広げたり、力を見せつけたりするために行われることがあると知りました。でも、そのせいで多くの人が亡くなったり、傷ついたり、悲しい思いをすることになります。やはり、戦争はしてはいけないことだと強く思いました。

イギリスでは「VE Day (Victory in Europe

Day)」という日があり、戦争に勝ったことを祝うイベントが行われます。私も町のパレードに参加したことがあります。でも、広島で学んだことで、イギリスでも多くの人が亡くなったり、けがをしたりしたのだらうと気づきました。イギリスのイベントでも黙とうの時間があり、日本の式典とは違う雰囲気ですが、勝った国でも失ったものがあることに変わりはなく、戦争はどの国にとっても悲しいものだと感じました。

今も世界では戦争が続いています。イギリスに住んでいたとき、隣に住んでいた親友がイラン人だったので、イランのニュースを見るたびにとても心配になります。戦争をしている国があったら、それをやめさせて、話し合いで解決するべきだと思います。私は英語もできるので、大人になったら世界の平和に関わる仕事をしてみたいです。たとえば、国と国の間に入って話をしたり、平和のための活動をしたりするような仕事です。

この広島派遣事業は、戦争という悲しいテーマを学ぶものでしたが、旅の中では新しい友達ができ、一緒に学び、楽しい思い出もたくさんできました。みんなでご飯を食べたり、バスの中で話したりした時間も大切な思い出です。この事業を準備して下さった市役所の方々に、心から感謝しています。そして、広島で学んだことを忘れず、これからの人生に生かしていきたいです。



D グループ

広島での体験

東 あかり

私がこの事業に参加して印象に残った体験が2つあります。

一つ目は、「被爆者体験講話」です。

この体験では、実際に原子爆弾を被爆した「佐伯克彦」さんという方のお話を聞き、自分たちの中で、いろいろなことを考えるということをしました。

まず、佐伯さんのことについてですが、佐伯さんは当時1歳で被爆、現在81歳になります。爆心地から西に4キロメートルの場所で、親の背中にいたところ、眩しい光が飛び込んできたそうです。また、佐伯さんのお話の中では、全身が焼けただれてベロベロになった人が歩いていたということや、約500名分のお骨が一つの校庭に埋まっていたという話を聞きました。どのお話も原爆が悲惨なことを物語っていましたが、原爆は言葉で表しても、その悲惨さは伝えきれないそうです。

そのお話の中で、わたしが一番心に残った言葉があります。

「正しく原爆について知ることが大切。」

被爆者の方々は、戦後、周りの国の人々から差別される中、国内でも広島のパカドンを浴びた人、という二重の差別を受けました。肌がただれた人は見た目が良くないということで結婚できなかったり、近づくと放射線が感染するという嘘により、差別されたり……。原爆についてだけでなく、戦争についても、自分の中にあるイメージや知識だけでなく、より多くの、そして、正確な事実を知ることが大切だとこの体験で感じました。

また、この言葉も頭の中に残っています。

「あなたたちの地元の戦争のことをあなたたち

が伝えてほしい。」

また、2つ目に印象に残った体験が、「ピースクリエーターになろう」という体験です。この体験は、平和に関する語句であったり、事象を可視化することによって、より事柄をわかりやすくするという体験でした。



具体的には、参加者全員でロープを持ち、ある一方を平和、もう一方を戦争と位置づけ、自分は、平和的か、否かという問題に対し、自分の位置で答えを示すということや、新聞の内容が平和かどうかなど、一歩ひねったところからの着眼点で、「平和とはなにか」を考えさせられました。私がこの体験の中で一番考えたのが、「私に何を足せば、平和になるか」という問いです。私は、この問いに「コミュニケーション能力」と答えました。平和を広めるためには、伝えることが大事だと思うのですが、私はそれが苦手なのでコミュニケーション能力と答えました。この体験で学んだ、ピースクリエーターになる方法をちゃんと、今後活かしていきたいです。

私は今回の事業で、戦争のことを「知って、伝える」使命というものを感じました。戦争を経験している方が減っている「今」こそ、「伝える」ということは「今」を生きる私達に託されていることだと、思います。

でも、戦争や原爆に囚われるということではなく、その出来事を知った上で、幸せな、平和な生活ができれば、それが一番いいと思います。

広島派遣について

吉田 龍騎

私は、この派遣事業に参加し、多くのことを学び感じました。広島だけではなく、身近な地域、東大和市や東村山市にも戦争があったのです。東大和にある変電所では無数に撃たれた跡がありました。東村山市のふるさと歴史館では、かつて東村山でも戦争をしていた、というのがわかります。

私はその後3日間の広島派遣に向かいました。1日目は被爆者からの体験講話を聞きました。まだ幼かったのであまり覚えていないということでしたが、被爆者の親戚の話によると町はほうかいし、さらには広島に住んでいた人々は、火傷などの重症などで苦しめられました。講話では、「正しく知ってほしい」と言われておりました。ここで私は改めて戦争の恐ろしさを実感しました。

2日目では、有名な原爆ドームを見学しました。私は、教科書などではたくさん見てきましたが、写真で見る時よりも、思ったよりも小さく、ハリボテの状態でした。たった原爆一つで、かつて、とても大きかった建物とは思えないほどに破壊されていました。その近くには、原爆の子の像がありました。これはある少女がモデルとなり、平和を願い、この像が作られました。像の周りにはたくさんの折り鶴があり、私たちが折った鶴もそこに飾られました。私はたくさんの折り鶴を見たとき、「こんなにも戦争をなくし、平和にしたいと思う人がいるんだ!」と思いました。

次に広島平和記念資料館に行きました。そこでは、原爆を受けた人々の服や建物、さらに、重症をおった人の写真などがありました。広島平和記念資料館には3日目に食べる予定のしげる君弁当もありました。しげる君が楽しみにしていた弁当は、灰と化してしまいました。原爆が落ちた時、しげる君は身をまるめ、弁当を守ったそうです。

資料館には、人が多く、日本人だけでなく、外国人も多く来ており、原爆の恐ろしさを知り、伝えていく人が増えたらな、と思いました。

2日目の最後に「ピースクリエイターになろう」というのを学びました。私は、ピースクリエイターで、平和のことを知っていくうちに、平和にする難しさを知りました。

3日目の平和記念式典では外国の人や、さまざまな人が参加しました。

最近では、戦争の恐ろしさ伝える人が減ってきています。私は広島派遣の経験を活かして、身内や友達に伝えていきたいです。



広島派遣事業で学んだこと

寺田 航翼

僕は、今回の広島派遣事業で、資料館を見学したり実際の写真を見たりして、戦争の悲惨さや命の大切さを学ぶことができました。

事前学習では、ふるさと歴史館で話を聞いたり展示を見学したりしました。そこでは、昔の東村山で起こった空襲のことや、通信兵を育てる学校について知ることができました。当時、東村山に爆弾を落とした爆撃機は往復分ピッタリの燃料しか積んでいなく、爆弾が余っていると、重さで燃料が足りず帰れなかったため、軍事学校があった東村山に爆弾を落としたそうです。その軍事学校とは、東京陸軍少年通信兵学校と呼ばれているものです。ここでは14～15歳の少年たちが、モールス信号の送受信や通信機の使い方などを、住み込みで2年間学びます。そして実際に戦地へ行き、作戦命令を通信したりしていました。しかし、戦地で亡くなったり、戦地にたどり着く前に敵から攻撃を受けて亡くなる人も多くいました。

広島派遣1日目は、被爆者の方から、原爆が落とされた時の話を聞くことが出来ました。当時の中学1、2年生は、建物疎開と言って建物を壊して空き地を作り、広島市全体が焼けてしまうのを防ごうとしました。中学3年生は、大人と一緒に工場で働いていました。8月6日8時15分、いきなり光が飛び込んで来ました。しばらく経って、広島市中心にキノコ雲が見えたそうです。全身火傷を負っていた人は、腕を前や横に突き出して逃げてきました。皮膚同士が擦れないようにする為です。学校に避難してもすぐいっぱいになってしまうので、真夏ですが校庭で寝かせるしかありませんでした。避難所で亡くなる人も多く、骨を埋める場所がない為、校庭に埋めていました。

2日目は、いろいろな資料館を見学しました。中でも、一番記憶に残っているのは、広島平和記

念資料館です。そこでは、爆風で折れ曲がった鉄骨、黒焦げになったお弁当、爆発による熱で苦しむ人々など、悲惨な展示が数多くありました。放射線の影響で、顔や舌に斑点が出てしまった兵士の写真を見て、放射線の恐ろしさをあらためて感じました。袋町小学校平和資料館も見学しました。袋町小学校は、原爆投下後に避難所になった学校です。家族などに伝言を伝えるために、煤で黒くなった壁にチョークで書いていました。

3日目は、平和記念式典に参加しました。式典には、たくさんの国の代表者が参加していました。その後国立広島原爆死没者追悼平和祈念館を見学しました。平和祈念館では、水をくださいと亡くなっていった人たちのために、広島市内の水を汲み上げているところがありました。

僕は広島派遣事業を通し、前まではそこまで気にしていませんでしたが、戦争は起こしてはいけないと、あらためてそう思うようになりました。これからは、平和なことの大切さや戦争の悲惨さを色々な人に知ってもらいたいです。貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。



戦争のない幸せ

大庭 真帆

私がこの広島派遣事業に参加した理由は、戦争について、ほとんど知らなかったからです。本で、戦争で亡くなった人がいたと書いてあったので、戦争について、もっと知りたいと思いました。

この平和学習をとおして、「戦争はだめなこと！！」と強く思いました。もし戦争がなかったら、今も家族と幸せに生きている人がたくさんいるはずで、多くの方が悲しくなったり、大切な人を奪われたりする戦争はなくなってほしいです。

広島に行って心に残っていることは、3つあります。

1つ目は被爆者の佐伯さんのお話です。被爆した時の様子を聞いてとても怖かったです。特に全身やけどをして、地面に手と足をつけて人がやってくる場所は、想像するだけで、恐ろしかったです。

佐伯さんは、爆心地から4km離れた所にいました。とてもまぶしい光の後に、ドーンという音、そして黒い煙が見えたそうです。近くの学校に避難する時に、全身やけどで亡くなる人がたくさんいたそうです。

佐伯さんのお話から分かったことは、爆弾から遠くても亡くなる人がいるということです。原爆の威力は、怖いと思いました。

2つ目は、広島平和記念資料館です。

被爆した人の服や放射線を浴びた人の写真などを見ました。爆弾が落ちたら地上では3000℃～4000℃になります。一瞬にして、色々な物が吹き飛びました。焼けた子どもの服を見たとき、「辛かっただろうな、かわいそうだな」と思いました。

今、東村山に帰ってきて、作文を書いています。平和記念資料館のことを思い出すと、「自分に起こったらどうしよう」と怖くなり泣いてしまいま

した。今の平和な暮らしがずっと続いてほしいです。

平和記念資料館で見た骨がたくさんある絵が1番怖かったです。爆弾で人が燃えて、人がみんな骨になったと知りました。本当にあったなんて信じられません。自分の近くで起こったらいやだなと思って怖くなりました。

3つ目は、平和記念式典です。私は、石破総理大臣や広島市長、こども代表、外国の方々と一緒に参加しました。「もう二度と戦争が起きませんように」という気持ちをこめて、黙とうしました。外国の人が来ているとは思わなかったので、びっくりしました。日本人だけではなく、世界中の人が平和を願っているんだなと思いました。

まだ世界の中には、戦争をしている国があると聞きました。すぐに戦争をやめてほしいと思いました。戦争をやめるには、人を傷つけないやさしい心をもつことが大切だと思います。日本が戦争のない平和な未来を作るためには、世界中の人と仲良くすることだと思います。みんなに私が学んだことや「戦争は身も心も傷つける」ということを伝えることで友達から友達へその考えが、広がっていくと思います。だから、私が経験したことを伝えていきたいと思っています。

この平和学習に参加して、戦争についてたくさん学び、話し合いました。これは、参加しないとできない経験でした。一緒に参加したみなさん、市役所のみなさん、ありがとうございました。



託されたバトン ～戦争を語り継いでいく使命～

大松 愛結

私にとって今年の夏のメインイベント、それはこの広島派遣事業でした。夏休みに入ってから、初めて自分の住んでいる地域でどのような戦争があったのかを調べました。すると八王子、立川、小平や府中、自分の住んでいる東大和にまでたくさんのしょうい弾が落とされていたと知りとてもびっくりしました。準備してのぞんだ事前学習日、参加者全員で東大和、東村山をまわって学習しているうちに友達もでき、準備万端！広島へ行く日がとても楽しみになりました。

そして八月四日、待ちに待った広島。広島では被爆者の方の話を聞いたり写真や映像をたくさん見ました。私は初めてこのような体験をして「こわい」「気持ち悪い」という感情がわいてきました。被爆してしまった人々のただれた皮膚などの絵を見て、どれだけ痛かっただろうと思いました。放射線をあびてかみが抜けてなくなってしまった人は、どれだけ悲しかっただろうと思いました。全身やけどを負った人の話は、とてもこわくてつらくて心に残りました。そして、被爆者の方が「みなさんはみなさんの地域の戦争の話をしていってください。広島戦争のことは私たちが伝えていきますから」とおっしゃいました。私はこの時、胸がぎゅっとしました。戦争は広島だけにあったことではない。広島で学んだこと、広島へ行くことと決めて自分の町の戦争について学習したことを、自分が家族や友達、たくさんのまわりの人へ伝えていこうと強く決心した瞬間でした。

そしてもう一つ印象に残っていることは「原爆の子の像」です。たった十二歳で病気で亡くなってしまったさだこちゃん。病気の原因は原爆の後遺症による白血病でした。この時、さだこちゃんのクラスメイトの子たちがお金をためて作ったのが「原爆の子の像」です。この話を聞いて私は、

子供なのにすごいなと思いました。原爆は落とされたその時だけでなく、落とされた後も長い間、残った放射線や後遺症で多くの人々が亡くなったそうです。私は、原爆はたった一発でこんなにも多くの尊い命を奪ってしまうのだと知るととてもショックでした。

あっという間に広島での三日間が過ぎて最終日、私は広島平和記念式典に参列しました。そのあと、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館に行きました。そこでは、亡くなった人々の写真が画面にかわるがわる流れていました。この映像の中には遺族が見つかっていない人もたくさんいるそうです。私は写真の人々の遺族が早く見つかりますようにと願いました。

広島平和記念公園で燃え続ける「平和の灯」。世界から核がなくなるまでずっと燃え続けるとバスガイドさんが教えてくれました。私は、世界から核がなくなって、この「平和の灯」が消える日を願い続けようと思いました。



7

参加者アンケート

アンケートの目的

「平和」や「地域の戦争」、「広島」について、それぞれの考えがどのように変化するかを知るために、参加者19人に事業の実施前と実施後にアンケート調査を行いました。

アンケートの結果

実施前 本事業に参加を決めた理由 (単位:人)

平和学習をしたいから	12
広島に行きたいから	2
親に薦められたから	3
友人に誘われたから	0
その他	2

実施後 本事業を何で知りましたか (単位:人)

市報	1
市のホームページ	0
チラシ	7
学校	6
家族から聞いて	4
友人・知人から聞いて	1
その他	0

本事業に参加した理由としては、「平和学習をしたいから」が最も多く、12人の回答を得ました。その他として、「以前参加したが、広島に実際行けなかったから」と新型コロナウイルスの影響で広島派遣ができなかったため改めて参加を決めたという回答や、「戦争について全く知らなかったから」と回答した参加者がいました。

実施前 広島派遣事業で最も興味がある内容は何ですか (単位:人)

広島被爆者体験講話聴講	1
広島平和記念公園の式典	5
袋町小学校平和資料館	1
本川小学校平和資料館	0
原爆ドーム	10
広島平和記念資料館	1
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館	1
原爆の子の像	0
その他	0

実施後 広島派遣事業で最も興味深かった内容は何ですか (単位:人)

広島被爆者体験講話聴講	3
広島平和記念公園の式典	2
袋町小学校平和資料館	1
本川小学校平和資料館	1
原爆ドーム	2
広島平和記念資料館	7
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館	1
原爆の子の像	2
その他	0

広島派遣事業で最も興味がある内容について、実施前は、よく知られている「原爆ドーム」が最も多くの回答を得ましたが、実施後は、「広島平和記念資料館」が最多の回答でした。子どもたちにとって、広島平和記念資料館に展示された被爆者の遺品など、被爆の惨状を示す写真や資料はとても衝撃的であり、原爆による被害について、より一層、子どもたちに刻み込まれたことが感じられる結果となりました。



実施前 自分たちが住んでいる身近な地域での戦争について、知っていることは何ですか

<p>昭和20年の出来事</p> <p>①武蔵野の中島飛行機などの工場地域を空襲したアメリカ軍のB-29の1機が被弾し、青梅市の山中に墜落しました。</p> <p>②立川を襲った空襲は広範囲に被害がおよび、多くの犠牲者を出しました。</p> <p>③アメリカ軍のB-29爆撃機約170機が八王子上空にやってきて、ものすごい数の焼夷弾を落としてきました。(八王子空襲)</p> <p>④空襲とは直接関係がありませんが、武蔵五日市駅近くの横沢入という場所には陸軍が兵器や資材を立川から疎開させたという地下壕がいくつか残されています。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・銃や爆弾によって変電所の壁に穴ができた。 ・従業員がたくさんいた。 ・上空からの空襲。 ・鉄筋コンクリートなため、建物本体は大きな損傷がなかった。 	<p>南公園にある変電所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銃弾で壁に穴が空いていた。 ・建物の骨組みが見えてしまっていた。 ・唯一残った建物 ・前はもっと多くの工場が建っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本は第二次世界大戦でアメリカに負けた。 ・イラン-イスラエル。12日続いた。 ・どっちの国がミサイルを持っているかで戦争をした。
<ul style="list-style-type: none"> ・ポールスターに防空壕がある。外から見るとはできないけど、当時のまま残されている。 ・平和観音像。B-29が墜落した場所につくられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京大空襲 ・平和観音 ・被爆石モニュメント ・平和都市宣言板 	<p>東大和南公園に銃で空いた穴や、まる見えの骨組みがあったり、中にはその時の生活の様子などの歴史がたくさんある変電所。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・原爆 ・特攻隊 ・食糧不足 	<p>太平洋戦争中に、この東大和市や多摩地域も空襲を受けた建物が南公園にある。</p>	<p>戦争とは違うけれど、ハンセン病などは市が行ってくれた校外学習で少し知っています。</p>
<p>太平洋戦争の時に、多摩地域は多くの空襲を受けた一部の变電所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎に原爆投下 ・第二次世界大戦 	<p>学校で4年生のときに「久米川に爆弾が落ちた」というお話を聞きました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・東京大空襲 ・疎開 	<ul style="list-style-type: none"> ・東大和南公園の変電所 ・東京都の下町にB-29が攻撃した 	<p>変電所・太平洋戦争戦災犠牲者慰霊碑・米軍大和基地の碑</p>
<p>知りません</p>	<p>変電所</p>	<p>ポールスターに防空壕がある</p>

実施後 地域の戦争・平和学習会に参加し、身近な地域での戦争について実際に学び、どのように感じましたか

東村山にも戦争をするために子どもたちにモールス信号を教える学校があったことに驚いたし、ふるさと歴史館にB-29の破片や千人針があったことを初めて知った。東大和市にとっても広い戦争を手助けするような施設があり、そこで111人ものが三度の空襲で亡くなったことを知った。これらの事を知って戦争についてとても身近に感じる事ができ、実際に見てみるとすごく学べると感じた。

これまでは、本やネットだけの情報を少し耳にするだけで、戦争は自分とは全然関係ないと思っていた。でも実際は、自分の学校が元々は東京陸軍少年通信兵学校だったり、自分の地域にB-29が落ちていたりしてとてもびっくりした。

広島戦争のことは知っていたが、自分達の周りにも戦争があることは、知らなかった。それほど大きくないものだと思っていたが、ボロボロの建物を見てなんともいえない気持ちになりました。

東大和市：広島で被爆したアオギリが自分達の地域にあるという事を知って、とても驚いた。

東村山市：ふるさと歴史館で千人針をはじめて見たり、知っている場所がもともと軍のための学校だったことを知って驚いた。

自分の住む身近な地域でも、想像以上に悲惨であることが起きていたという過去を学び、未来へ繋げていくべきだと強く感じた。

私は変電所に何度も立ち寄って説明書を見てきたけど、実際に学びで行ってみると今まで知らなかったことが詳しく知れて、とてもいい機会だと感じました。

自分たちがいる町も戦場だったと知り、驚いた。

旧日立航空機株式会社変電所の他にも、戦争のことに関係している場所が多く、びっくりした。

こんなに身近に戦争の影響を受けていたと知ってとてもびっくりしました。

自分が住んでいる町も空襲があったんだと思った。

戦争といえば、広島や長崎のイメージだったけど、身近な地域でも戦争があったと知ってびっくりした。

旧日立航空機株式会社変電所見学骨組みがある、ないだけで弾丸が壁を突っ切る。

最初に戦争は爆発だけだと思っていたけど、旧日立航空機株式会社変電所見学をして、銃も使うということにびっくりした。

自分自身があまり知らないだけで、自分の周りにも戦争があったのだと、知ったことにより自分事のように感じられました。

戦争とは広島や長崎のイメージが強かったけれども、僕たちの住んでいる東大和、東村山でも実際に起きていたことなだと改めて感じました。

実際に80年前こら辺でも空襲などがきていて、こんな身近で戦争があったんだなと思った。

平和は大事だということをあらためて思いました。今はいつも平和だけど、昔はそうではなかったことを知りました。

身近でこんなことがあったと知り、驚いた。

身近な場所でも戦争で人が亡くなった事を知り、ショックに思った。

思ったよりも残酷で興味深く、勉強になった。

実施前 広島と聞いて思い浮かぶイメージは何ですか

・もみじまんじゅう ・厳島神社 ・宮島 ・お好み焼き ・牡蠣	・もみじまんじゅう ・原爆 ・厳島神社 ・お好み焼き ・野球	・戦争 ・原爆ドーム ・お好み焼き ・広島カープ (野球)
・最初に原爆を落とされた場所 ・お好み焼きの発祥の地 ・広島東洋カープ ・厳島神社といった世界遺産	・1945年8月6日被爆 ・原爆ドーム ・厳島神社 ・もみじまんじゅう ・広島風お好み焼き	・世界で初めて核爆弾が実験などではなく 落とされた場所 ・原爆ドーム ・厳島神社 ・かき
・厳島神社 ・原爆ドーム ・もみじまんじゅう ・かき (貝) ・もみじ ・千羽鶴 ・カープ (野球)	・広島風お好み焼き ・もみじまんじゅう ・原爆ドーム ・厳島神社 ・レモン ・かき ・尾道ラーメン	・原爆 ・食べ物 ・米軍 ・きのこ雲 ・戦争
・原爆ドーム ・もみじまんじゅう ・お好み焼き	・原爆ドーム ・戦争 ・空襲 ・お好み焼き	・お好み焼き ・原爆ドーム ・もみじまんじゅう ・宮島 (鳥居)
・戦争の被害が一番多い	・原爆ドーム ・お好み焼き	・お好み焼きのソース ・海がきれい
・原爆が落ちた場所 ・お好み焼き	・原爆 ・カープ	・原爆ドーム
・原爆		



実施後 実際に広島に行った後、広島についてどのように感じましたか

広島に行く前は、戦争の悲しい歴史をもつ場所というイメージが強かった。広島を訪れた後は、平和記念資料館や原爆ドームなどで教科書やテレビだけでは分からなかった原爆の悲惨さや平和の尊さを深く考えさせられました。また、平和を願う広島の人々の思いを強く感じました。

広島のマチのいたる所に慰霊碑があり、そのひとつひとつに千羽鶴やお花が置かれていて、広島市に住む人々がみな平和を願っているのだなと思った。本当にいたる所に戦争や平和に関する場所があることに驚いた。広島は初めて人に対して原爆が落とされた都市だとあらためて思った。

広島はとても平和を祈っているように感じました。なぜかという色々な展示物を見たり、聞いたりしてみると、そこから当時の人々や広島の人々から平和を祈るような思いが伝わってきたからです。

広島に行く前は広島といったら原爆ドームだけしか思い浮かばなかったけれど広島に行ってみたら原爆ドーム以外にも大きな被害を受けている所は多かったため、今は広島といったらといわれたら色々と思い浮かびます。

自分たちが住んでいたりしていなくても、広島で悲惨なことがあったことは忘れてはいけない。戦争の事だけではなく、広島には色々な有名なものがある。例えばお好み焼き、もみじまんじゅうなど。

戦時や原爆が落とされたときの名残が、広島の中何個もあってびっくりした。でも、町はとてもきれいだったし、広島の人たちもとても優しくかった。

決して「かわいそうな所」だけではない、ということ。戦争のことに限らずたくさんいい所(特徴)があった。→ごはんや川など。

学校で教科書で学ぶよりも、戦争の悲しさ、哀しさが伝わってきます。また、戦争をしたのにも関わらず、町が思ったよりも都市化していた。

原爆ドームは思っていた以上に大きくてボロボロでした。あんなに大きな建物やレンガが一瞬で吹き飛ばすような威力は今でも信じられない。

広島平和記念資料館を作ったり、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館を作ったりして頑張っているなと思いました。

個人的に「戦争の町」というイメージをもっていたのですが、すごくキレイに整備されていたので、あまりそのようなイメージがなくなりました。

80年前は原爆によって枯れた町だったが、現在、復興し、地産物なども有名になっており、潤いを取り戻していて感動した。

広島の木が75年後まで育たないと言われても、木が育っていったし、人もいっぱいいてとてもすごいと思った。被爆した路面電車も動いていてびっくりした。

原爆の投下された場所に行ったりし、平和のシンボルの様な場所だと思った。

広島には、平和や核兵器についての資料館がたくさんあって、すごいと思った。

原爆が落ち、多くの人々が辛い思いをしたところ。

被爆した建物が思っていたより多かった。

今の広島に、戦争の跡があるのを見て、戦争は80年前だけじゃないんだなと思った。

ここまで発展していて本当に原爆が落ちたのか分からなかった。

実施前 平和とは何だと思えますか

<ul style="list-style-type: none"> ・相手を認め合う事 ・安心でき、安全なこと ・一人一人が生き生きしていること（笑顔でいること） ・皆が同じ方向を向き、歩いていること（未来へ） ・規律を守ること（規律の中で自由に！） 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でも愉快地暮らすこと ・楽しく日々を送れること ・人、一人一人が平等であること ・恐怖の下で、誰一人も暮さないこと 	
<ul style="list-style-type: none"> ・人々が人の手により理不尽に殺されたり、傷つけられたりしないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・平等 ・大きな争いがない ・幸せ ・安心して暮らせる ・差別がない 	<ul style="list-style-type: none"> みんな平等に幸せな暮らしを送れていること ・幸せ ・平等 ・差別がない
<ul style="list-style-type: none"> ・心配ごとがない ・争わない 	<ul style="list-style-type: none"> ・争わないこと ・違う意見に対して、否定しないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが幸せに暮らせること ・みんなが笑顔
<ul style="list-style-type: none"> ・ケンカが起こらない 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争のない豊かなくらし 	<ul style="list-style-type: none"> ・人々が笑顔で暮らせること
<ul style="list-style-type: none"> ・戦いや争いがなく、穏やかな状態 	<ul style="list-style-type: none"> ・平和とは戦争のない世界を作っていくこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・人々がぶつかりはするけど、話し合いで終われる世
<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが安心して、過ごせる世界 ・「楽しい」が増える世界 ・おなかいっぱい食べられる ・安心して眠れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが幸せに暮らす、長い時間のこと ・けんかや争いのない世界 ・関係ない人の命を奪うことのないとき 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや戦争がない世界 ・世の中の人々が笑顔で安心できること ・世の中の人々が穏やかでいれること
<ul style="list-style-type: none"> ・国や地域どうしでの争いがなく、人が安心して暮らせる世の中 	<ul style="list-style-type: none"> ・人々が争わない世界 	



実施後 平和とは何だと思えますか

争わないことや、安全なことなど、たくさんあるけど、今回学んできたこと全てひっくるめた上で、人によって違うから分からない。だから争いが起こるのだと思う。

自分含め、周りの人々が笑っていられること。何の不安もなく、おびえることのないこと。その人が幸せだと思うこと。

誰かに誰かが無意味に命を奪われず、それぞれが好きに暮らせること。

戦争がなく、全員規則正しく生活していること（犯罪など）。

争わない今のような日常が送れること。

誰もが安全安心に過ごせる日常のことだと思います。

人が戦いによって亡くならない事。

1人1人が平和とは何かと考えられること。または、その環境。

平和とはみんなが幸せに暮らせることだと思います。

生きること、明日が保証されており、誰もが互いを尊重し合える環境であること。

一人一人が周りの人を思いやる世界。

笑顔。

すべての人が幸せと感じられる時。

戦争が世界から無くなっても、平和ではないと思う人がいれば平和ではない。

- ・一人一人が認め合うこと。
- ・対等な関係であること。
- ・皆が笑っていること。

- ・穏やかな日常。
- ・犯罪などがない世界。

- ・人が元気に暮らせて、安全なこと。
- ・どこの国でも戦争が起きていないこと。

- ・戦争がない。
- ・けんかなし。
- ・みんな仲良し。
- ・嫌なことがあったら話し合う。

- ・みんなが秩序を守って暮らすこと。
- ・戦争がないこと。

- ・今が平和だけど、けんかや世界の戦争がなくなればみんなが平和になると思う。
- ・けんかや戦争がないこと。

実施前は、平和とは「争わないこと」といった意見が多くありました。実施後は「今のような日常が送れること」のように、身近なところで平和を実感したり、「1人1人が平和とはなにかと考えられること」のように、平和は1人1人が行動することが重要だと感じたりするなど、平和の概念がより広がりました。

実施前 本事業で何を学び、何を得たいですか (単位:人)

戦争の悲惨さ	13
命の大切さ	15
平和を守ることの重要性	9
自分の目で見えて感じることの重要性	12
同世代の参加者との意見交換による気づき	8
平和学習に参加して感じたことを作文にまとめる力	5
その他	2

- 現実を受け止める力
- 過去を学びもう二度と繰り返さないようにする力

※この設問は複数回答可であるため、合計が参加者数と一致していません。

実施前 事業に対する意見など

自分が住んでいる地域で戦争で何がおこったのか、世界で初めて原爆が使われた広島にも行って戦争の悲惨さを知りたいです。

今回、平和学習に行かせてもらうことになり、とても嬉しく思っています。選んでくださりありがとうございます。平和や命についての学習はもちろん。それ以外でも初めて会った人との関係性などでも学ぶ所があるので頑張ります。

広島の良いところについても知りたい。



実施後 本事業で何を学び、何を得ましたか

この事業で、実際に見て、聞いて、感じる、という貴重な経験を通し、戦争についてはもちろん、命の重みを学んだ。この経験と学びを活かして、正しい情報を、今ある平和を、未来に繋ぐ貢献者になりたいと思う。

平和の尊さや戦争、核兵器の恐ろしさ、身近な場所での戦争の歴史、戦争はしてはならないということを学び、平和を大切にすること、二度とできないような貴重な経験で多くの学びを得ました。

今回の広島派遣事業で、平和とは人々の平和を願う強い気持ちで続いていくことなんだと感じました。

被爆した方たちの思い、当時の状況を学び、改めて戦争はしたくないし、してはいけないと思った。

平和の大切さや、半径約4km以内にいた人がやけどを負ってしまっていたので今核があってほしくないです。

戦争の恐ろしさを知り、自分が人に伝えていく事が大切だと思った。

リアルな体験を得ました。それと同時に自分のためにも行動を積極的にしようと思いました。

戦争の悲惨さ、恐ろしさ、平和の重要性、大切さ、命の尊さを学んだ。

今、自分が今後の世代に伝えていくこと。

戦争がないことの幸せさや戦争の悲惨さです。

戦争についての興味。	・グループワークの力。 ・原爆の威力。	・原爆。 ・戦争の悲惨さ。
・戦争について。 ・地域の歴史。 ・友だちがあたりしなくてよかった。	・平和について。 ・広島で何が起きたのか。 ・周りの人とコミュニケーション。	・人との関り。 ・戦争の悲惨さ。 ・「今」の大切さ。
・本事業では、戦争や核兵器の恐ろしさを学びました。 ・戦争についての知識などを得られました。	・戦争のない幸せ。 ・核兵器のおそろしさ。	・命の大切さ。 ・戦争の悲惨さ。

本事業の実施前に「戦争の悲惨さ」「命の大切さ」「自分の目で見えて感じることの重要性」を学びたいという意見が多数ありました。実際に広島市の惨状を自分の目で見えて感じた子どもたちは、「戦争の悲惨さ」や「命の大切さ」について実感することができ、本事業で学んだことを伝えていきたいと感じることができました。

実施後 広島派遣事業の満足度を 内容別に教えてください。(単位:人)

	満足	少し満足	少し不満	不満
広島被爆者体験講話聴講	17	2	0	0
平和記念式典	11	7	0	0
袋町小学校平和資料館	14	5	0	0
本川小学校平和資料館	14	5	0	0
原爆ドーム	16	3	0	0
広島平和記念資料館	17	1	1	0
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館	13	5	0	0
原爆の子の像	16	3	0	0

実施後 本事業に参加して みて、満足度を 教えてください。

(単位:人)

満足している	19
少し満足している	0
少し不満である	0
不満である	0

実施後 本事業に参加した感想

とても色々な事を学べて、うれしいです。今後ずっと平均年齢が上がっていくであろう被爆者の方のお話を聞かせていただいたり、平和記念式典に東村山市の代表として参列させていただくという貴重な経験をさせていただきありがとうございました。この平和学習で学んだことは一生忘れません。本当にありがとうございました。

まず、事業に参加させて頂き、本当にありがとうございました。戦争のこと、命のこと、平和のことなど、新たなことを多く学べた、とても濃い期間でした。

そして、他市・他校の人たちとの交流、また、大きな場での報告会など、今後の自分の自信にも繋がる、良い経験でした。

平和や戦争について学べてとてもよかったですと思いました。地域での戦争を学んだ際には、自分が住んでいる地域でも戦争が起きていたんだと改めて実感しました。

3日間という短い間でしたが色々な所に行き、詳しい説明など新たな発見が多くありました。そして初めて会った人たちと仲良くなれて楽しかったです。

教科書やネットの情報だけでは学べない、当時のことを、見たり、聞いたりすることで感じる事ができた。そして、戦争のことだけでなく、現在の広島の良いところも体験することができたのでとてもよかったです。

勉強になったとしても楽しかったです。戦争について知らなかったこともとてもよく分かりました。私はこの広島派遣事業に参加してよかったです。

原爆ドームを初めて見だし、戦後80年の平和記念式典に参加できたことが嬉しかった。

実際に広島へ行って平和学習ができたのは、とてもよかったです。ただ、もう少しゆっくり見たかったという気持ちもあります。

今回の貴重な体験はどれも記憶に刻むような事で、しっかり広島のこと、平和の意味を知れました。

やっぱり今年は予定がキツかったので疲れたんですが、総体として、いい機会になったのではないかなと思います。

戦争は決して起こってはいけないう事なのだと感じました。

夏で暑い中だったけれど、たくさん平和について知る事ができて、もっと多くの人に参加してもらいたいと思った。

戦争や平和のことを知り戦争の辛さや悲しさがよく分かりました。

いろいろな戦争のことを知れてよかった。

被爆者の話を聴けてよかった。

戦争のことを知る目的で行ったけど、平和のこと、命のことも学べたから参加してよかったです。

実際広島に行ったら、思っていたより全然違い本当のことを知れてよかった。

友だちとは行けなかったけど、行ってよかったと思う。

とてもいい事業でこれからも続けてほしい。

作文に書きました。ぜひ見てください。

実施後 今後、戦争・平和学習として実施してほしい事業、 訪問してみたい場所など

長崎でも平和学習をしてみたいです。広島より戦争の痕跡が残っていないと聞いたことがあるけれど、長崎も原爆が投下されて多くの方が亡くなった場所なので行ってみたいです。

長崎県 原子爆弾が落とされた、もう一つの地だから。	長崎での平和学習。 高校生になっても行けるようにしてほしい。	長崎を訪問したい。 理由、長崎も原爆を落とされているから。
靖国神社にもう一度行こうと思った。	知覧特攻平和会館	知覧特攻平和会館
相生橋	沖縄	レモンのデザートを食べたかった。

東大和市平和都市宣言

恒久平和の実現と、核兵器の廃絶は、全人類共通の願望である。

世界の世論のたかまり、各国の相互理解により、核兵器の廃絶にむけて曙光が見えてきたとはいえ、依然として地球上には多くの核兵器が貯えられている。

世界で唯一の核被爆国の国民として、また、国際社会の平和と協調を理念とする憲法をもつ国の国民として、人類の安全と幸福のために、地域紛争を含むすべての戦争の防止と、あらゆる核兵器の廃絶を心から願うものである。

ここに、平和を愛する全世界の人々と手を携えて、戦争と核兵器のない世界の建設にむけて努力することをあらためて誓い、東大和市が平和都市であることを宣言する。

平成2年10月1日

宣言

東村山市核兵器廃絶平和都市宣言

地球上には、全ての生命と文明を一瞬にして滅亡させてなお余りある核兵器が存在し、人々はその脅威にさらされている。

世界唯一の核被爆体験を持つ国民として、いかなる地域においても、再び広島・長崎のあの惨禍を繰り返してはならない。我々市民は、核兵器がいかに悲惨なものであるかを、全世界に強く訴えるものである。

東村山市は、瞬時に自然を破壊し、人類の滅亡をもたらす核兵器の廃絶と、人類永遠の平和の願いをこめて、「核兵器廃絶平和都市」であることをここに宣言する。

昭和62年9月25日

東京都 東村山市

令和7年度
東大和市・東村山市
地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業 報告書

令和8年1月 発行

編集・発行

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会

・東大和市市民生活部市民生活課

東京都東大和市中央 3-930

電話 042-563-2111 (代表)

・東村山市市民部市民相談・交流課

東京都東村山市本町 1-2-3

電話 042-393-5111 (代表)

